

上田市文化財報告第15集

中井遺跡

—長野県上田市中井遺跡発掘調査報告書—

1981
上田市教育委員会

上田市教育委員会
東信土地改良事務所

上田市文化財報告第15集

中井遺跡

—長野県上田市中井遺跡発掘調査報告書—

1981

上田市教育委員会
東信土地改良事務所

序

上田市保野一帯は、豊富な文化財が存在する塩田平の中でも早くから開かれた地域です。とりわけ湯川沿いの肥沃な土地には、多くの埋蔵文化財が包蔵されております。

今回、この地域を対象に農業基盤整備のための県営圃場整備事業が実施されることになりました。上田市教育委員会では、長野県教育委員会の指導のもとに長野県東信土地改良事務所と協議を行ない、保野の中井地籍の緊急発掘調査を行うことに決定いたしました。

発掘調査は上田市文化財調査委員五十嵐幹雄先生を調査団長にお願いし、昭和55年7月25日から10月8日までの2ヶ月余の長期に渡って実施されました。その結果、多量の土器片、木器類の出土を見ました。また平安時代の堀立柱建築址等が検出され、今後の学術上貴重な成果をあげることができました。

この地帯は強い粘土地であり調査時期が真夏の炎天下の厳しい条件のもとで行なわれ大変ご苦労が多かったと思います。

終始この調査にご協力いただいた地元保野の方々、自治会の皆さん、及び圃場整備事業にあたられた長野県東信土地改良事務所の関係者の皆さんに厚くお礼申し上げる次第であります。

昭和56年3月

上田市教育長 滝沢 石

例　　言

- 1、本書は上田市塩田西部地区圃場整備事業に伴なう中井遺跡緊急発掘調査報告である。
- 2、中井遺跡は上田市中塩田字保野に所在する。
- 3、発掘調査は東信土地改良事務所の依頼を受けて、上川市教育委員会が事業主体となり調査團を編成し、昭和55年7月25日～10月8日にかけて実施した。
- 4、遺構・遺物の整理・実測は、小林真寿・坂井美嗣・中川政信が行い、トレースは中川が行ない、遺物の復原作業は宮原洋子が担当した。
- 5、遺物の整理にあたっては、上田女子短期大学・塩入秀敏氏、信濃国分寺資料館学芸員・林和男氏の御教示・御協力を得た。
- 6、本書の執筆は、五十嵐幹雄・中川政信が分担し、中川が編集した。
- 7、本書に収録した出土遺物は、上川市教育委員会が一括保存し、信濃国分寺資料館が管理・保管している。

目 次

序

例言

第1章 位置と環境	1
第1節 自然的環境	1
第2節 歴史的環境	2
第2章 発掘調査の経過	5
第1節 調査の経過	5
第2節 調査用の構成	5
第3節 発掘調査日誌	7
第3章 層序	10
第4章 造構と遺物	11
第1節 壺穴状遺構	11
第2節 特殊遺構	18
第3節 据立柱建築址	21
第4節 築石址	22
第5節 土壙址	22
第6節 溝址	22
第7節 炭化米出土ピット	23
第5章 まとめ	40

第1章 位置と環境

第1節 自然的環境

中井遺跡は、上田市中塙田地区保野区に所在する。ここは、千曲川左岸にある塙田平の中央やや北よりに位置している。塙田平は、東に小牧山塊、南に独鉛山塊、西に西部山地があり、三方高地で北方を開けた盆地状平地であり、その北端を千曲川が東から西へ流れて限界となっている。また、南方独鉛山塊から産川が流出し、塙田平のほぼ中央を流れ、千曲川に流入している。この産川は、独鉛山塊から流出する塙野川・神戸川・石神川、さらに小牧山塊から流出する尾根川を、また、西部山地からの湯川をも合わせており、塙田平にある水系の中軸となっている。

これらの河川の水源となる山地は浅く、湧水量が少ない。また、内陸的気候のため降水量が少ないとから、塙田平には100余の溜池がつくられている。かって塙田平の水田耕作は、専らこれらの水に頼っていたが、近時溜池としては大規模な沢山池が築造され、また丸子町から依田川の水を揚水することも可能となつたため、用水確保は容易になった。

塙田平は、かって湖沼と言われ、前記の各河川の押し出しによる堆積で成立したものと言われば、産川の流域ではその下層に泥岩層・砂岩層があり、また、堆積木や葦類等の有機物質がしばしば発見されている。しかし、今日では各河川がこの堆積層を侵食しながら流下しているため、蛇行状態になっている所が多い。

中井遺跡は、湯川の左岸に位置している。湯川は、西部山地と独鉛山塊との接点にある別所温泉から発し、北流している。舞田区の北方田中地籍から東方に流れを変え、保野区の北側を東流し、保野区東端で再度北流し、福田地籍に於て産川と合流している。かっての湯川は、川西丘陵の東麓を北流したようであり、才勝本地籍（中井遺跡A地点）と福田地籍の間に、西南から東北方向にその旧流路の痕跡をみることができる。中井遺跡A地点は保野新田の北側で、旧湯川の流跡南側河岸段丘に位置している。中井遺跡B・C地点及びD地点は、湯川が保野区東端から北流する流路のうち、保野橋から保屋新田聚落までの間にあり、蛇行する湯川の左岸段丘上にある。

塙田平の土質組成は産川系は砂質壤土、湯川系は強粘土、尾根川系は砂礫質壤土と分かれている。中井遺跡周辺も「保野の強粘土」と称される如く、強粘土地帯となっている。地表はほぼ平地であり、肥沃であるため古くから水田として開発されている。

（五十嵐幹雄）



第2節 歴史的環境

塩田平は「信州の学海」・「信州の鎌倉」と言われ、早くから文化が開けていた。今日でも文化財・史跡の多いところとして知られている。国宝安楽寺八角三重塔、重要文化財の前山寺三重塔、中禪寺薬師堂及び薬師如來坐像・木造神将立像、安樂寺の木造惟仙・惠仁両和尚坐像、常楽寺の石造多宝塔をはじめとして、長野県・上田市の指定文化財が多く、史跡としては県指定の塩田城跡をはじめ上田市指定史跡なども多い。

塩田平が盆地状の平地で、さらに肥沃であるなどの自然条件に恵まれていること、そして、自然湧出の別所温泉などがあり、古くから人々の生活の跡がみられる。

塩田平には旧石器時代の遺跡はいまだに発見されていない。縄文時代早期の織維混入土器が、別所地区の塩水遺跡・比蘭樹遺跡から発見されており、前期の遺跡ではやはり、別所地区的北浦遺跡などが知られている(1)。この時期が、塩田平の夜明けといえることができる。これらの遺跡は発掘調査したものではないため、その範囲及び出土遺物について詳細を知ることはできない。

中期以降の縄文時代の遺跡の数は多く、塩田平全域で78箇所を数えることができる。その大部分は産川の流域両岸にあり、手塚・前山・新町・十人・上本郷・五加・梨ノ木地籍などに多いが、その大部分は中期の勝坂・加曾利E期に比定される遺跡である(2)。後晩期の遺跡では、

堀之内式土器・加曾利B式土器を出土する五加地跡・梨ノ木遺跡1箇所が知られているにすぎない。弥生時代の遺跡数は91遺跡が知られており、一地域としてその分布は濃密で、上小地区では信州大学織維学部敷地遺跡、東部町長縄手遺跡、中之条遺跡群などの千曲川沿いにある諸遺跡とともに、重要な遺跡地帯である。

塩田平の弥生時代の遺跡の大部分は産川の流域にあり、そのうち杵木(3)・諏訪畑(4)・西光坊遺跡(5)などは発掘調査され、遺構とともに多量の遺物が出土している。これらはそのほとんどが弥生時代後期の霜清水期に比定されるものである。

古墳時代には、西塩田区新町の王子塚が前方後円墳で、古墳時代中期に比定されているほかは、すべて古墳時代終末期の円墳である。その分布は東側の小牧山塊の北端部に舟底古墳群があるのをはじめとして、中央部には下之郷古墳群がある。下之郷古墳群は、東山古墳支群を中心部におき、北に紅平山古墳支群、南に雲雀古墳支群に区分されるが、正確な総数は知り得ない。なお記録では数十基あったといわれるが、現在では10数基残るにすぎない。また、塩田平の南部及び西側部には少なく、独鉛山塊の西部から西部山地の南部地域にかけての手塚地区から別所温泉に亘る一帯に、數基の円墳を知ることができるだけである。

また、古墳時代の遺物を出土する遺跡は、塩田平全域にあり、殊に産川、湯川の流域に数多く知られている。

塩田平中央東側部に延喜式内大社の生島足島神社が祭祀され、塩田平及び当地方の開拓の神として信仰を集めている。当神社の摂社には諏訪神社が祭祀されているが、諏訪神が当地通過の時、生島足島神社に奉祀したことから摂社として祀られたものだと旨われ、国生み伝説からも古い神社とされている。このことから、当地の開拓の古いこととともに、大和朝廷との関わりも知ることができる。

古代の東山道は、諏訪から大門峠を通り、雨境峠から佐久方面に通じ、碓氷坂を越え東国に通じていた。また、大門峠から分岐した支道は、大門川・依田川に沿って北方へ下り、丸子地籍の依田地区の砂原峠を越え塩田平に出て、更埴からさらに越の国に通じていたという。塩田平はその沿道にあたり、早くから大和朝廷と関連があったものと考えられる。ことに、国造制に伴うその治所が生島足島神社付近に設置されたと言われている。大化改新によって整田の制が施行されたことによる条理遺構が、中塩田から西塩田に亘って広範に知られている(6)。(この条理遺構については後世のものともいわれている。)

奈良時代の東山道は、筑摩から錦織を通り、保福寺峠から浦野川に沿って下り、豆理駅で千曲川を越えたといわれているが、この東山道は塩田平の北端を通っている。〔国都制がしかれるとともに上小地方には浦野郷・福田郷・豆理郷などができるが、当塩田平はこのうち福田郷に入るといわれている(7)。〕

國府はまず上田市神科地区に置かれ、やがて塩田平生島足島神社近くに移され、その後、松本平に移ったものといわれている(8)。国造も、また国司もその治所を塩田平に置いたことは、早くから中央政権にとって信濃国の要所であったことが推察できる。

平安時代の末期、醍醐天皇の天長年間にできた『倭名類聚鈔』には、「信濃國には小縣ははじめ10郡があり、さらに67郷がある」という記載がある。そのうち小縣郡には8郷があり、うち、安曾・福田の2郷は塩田平に位置するという。

また、醍醐天皇延喜5年8月藤原時代が撰組したという『延喜式神名帳』には、塩田平にある神社のうち大社として生島足島神社2座、小社として塩野神社が記載されている。また鎌倉時代の『吾妻鑑』には、塩川庄の名がみえ、ことに北条氏が信濃守護職となり、その守護所を塩田城に構えたといわれ、信濃国古代・中世には、塩田平は重要な位置を占めていたものと思われる。「信州の鎌倉」とは、この時代の遺跡・遺物の多いことからいわれる所以である。

中井遺跡はこの塩田平のほぼ中央北寄りにあり、塩田平の開発とは常に深いかかわりをもつておらず、古くから歴史的環境に恵まれていたところである。

〈五十嵐幹雄〉

註(1) 上田市教育委員会編「上田市の原始・古代文化」(1974)

註(2) 小林幹男「長野県小県郡塩田町検田見道跡」信濃13-9 (1961)

註(3) 川上元・小林幹男「長野県小県郡塩田町桟木遺跡緊急発掘調査報告」信濃22-8 (1970)

註(4) 同上

註(5) 小林幹男・川上元「西光坊・向田II・石原遺跡緊急発掘調査報告」長野県考古学会誌15 (1972)

註(6) 上田市教育委員会編「条理造構分布調査概報—塩田地区—」(1975)

註(7) 上田小県誌刊行会編「文学博士一志茂樹先生による東山遺古跡についての講演会」(1971)

註(8) 黒坂周平「上田小県誌第1巻歴史篇上」

第2章 発掘調査の経過

第1節 調査の経過

1. 上田市塙田西部地区圃場整備事業が計画され、昭和55年度より実施することになった。昭和55年度に実施予定地域内に周知の遺跡として「中井遺跡」があるため、関係者協議の上、緊急発掘調査をすることになった。昭和55年6月27日に東信上地改良事務所長と上田市長との間に「中井遺跡発掘調査」の委託契約書が取りかわされ、さらに昭和55年6月30日、上田市塙田平土地改良区長と上田市長との間に同様な委託契約書が取りかわされた。

上記の経過に基き上田市教育委員会は、上田市文化財調査委員会に発掘調査に伴う具体的な事項について諮詢した。調査委員会は協議の結果、五十嵐幹雄委員を調査担当者とする旨を答申した。よって上田市教育委員会は、五十嵐幹雄を団長とする調査団を編成し、昭和55年7月23日付けて、上田市長と調査団長との間に次のような契約書を取りかわした。

2. 事業委託契約書

上田市長（以下「甲」という）と中井遺跡発掘調査団長五十嵐幹雄（以下「乙」という）の間に中井遺跡発掘調査の事業について下記のとおり委託契約する。

1. 甲は事業遂行のため委託料として、金830万円を乙に支払うものとする。
2. 乙は、甲からの事業委託にもとづいて、甲の指示通り事業を遂行するものとする。
3. 乙は委託事業終了後、1週間以内に甲に事業報告書を提出するものとする。
4. 乙は委託契約事項を遂行しない場合は、委託料を甲に返納するものとする。

3.

以上の経過に基き、昭和55年7月23日上田市役所に於いて第一回調査団会議を開催し、調査方法についての諸打ち合わせを行ない、昭和55年7月25日から発掘調査をはじめた。

たまたま雨期のため降雨が多く、遺跡地が強粘土地質のため深泥となり、一方、晴天には強度の硬土質となることから、発掘作業には困難が多く調査は予定より遅れたが、関係者の協力により10月8日現場での発掘調査を終了した。

以後、上田市立信濃国分寺資料館の整理室・研究室に於いて、出土品の整理及び報告書の作成をし、昭和56年3月31日に概報を提出した。そして、5月31日に本報告書を提出し、調査を終了した。

第2節 調査団の構成

調査団の編成にあたっては昭和55年度中に上田市教育委員会では、中井遺跡のほか、立工場、

下前沖・堀之内・久保・浦沖・無量寺などの諸遺跡を発掘調査及び試掘・立ち合い調査などがあり、これらの諸調査を同一調査団に委託することを予定し、団名を「中井・立丁場・下前沖外遺跡発掘調査団」として編成した。

調査団の編成は次のとおりである。

調査団長	五十嵐幹雄	(日本考古学協会会員・上田市文化財調査委員)
調査主任	中川 政信	(長野県考古学会会員)
調査員	塙入 秀敏	(日本考古学協会会員・上田女子短期大学講師)
"	児玉 卓文	(長野県考古学会会員・上田染谷丘高等学校教諭)
"	宮原 洋子	(信州大学卒)
調査補助員	堀田 雄二	(長野県考古学会会員・明治大学生)
"	坂井 美嗣	(長野大学考古学研究会・長野県考古学会会員)
"	小林 真寿	(長野大学考古学研究会・長野県考古学会会員)
"	柳原 哲夫	(筑波大学生)
事務局長	山浦 勇	(社会教育課長 55年9月30日迄)
"	小林 三男	(社会教育課長)
事務局次長	小山 幸	(文化係長)
事務局員	倉沢 正幸	(文化係主事)
"	川上 元	(上田市立博物館庶務学芸係長)
"	林 和男	(上田市立信濃國分寺資料館学芸員)

調査協力者

- (学生) 和泉直樹、和泉史子、小林晶子、瀬田晃、村松直樹、矢島みづ江、横江輝男
(地元) 飯塚勉太郎、池村袈裟辰、石井茂人、石井辰雄、石井義九、石井与四郎、市川固、市川庄吉、市川仁一、上野永一、上野茂則、上野美好、遠藤芳男、大久保敬市、加藤明男、小林猛、小林博紀、瀬志本輔守、竹内富次、田中利明、原静馬、原照明、原達也、原謙雄、原康徳、原柳平、東川不可見、樋口健次郎、樋口弘明、堀内国平、保屋野次郎、保屋野忠雄、保屋野裕輝、保屋野光彦、前山義内、前山義忠、水沢和雄、池村かほる、池村富士子、池内昭子、加藤恒子、加藤みや子、北沢かつよ、小林ふさ子、杉浦愛子、長谷川滋子、保屋野正子、前島かね、室賀よし江
(その他) 五十嵐芳子、中川恭子、宮下タケ子

第3節 発掘調査日誌

昭和55年

- 7月25日（金）晴 鍛入れ式、A地点試掘、本日より現場発掘作業開始。
- 7月26日（土）晴 A地点・B地点試掘。
- 7月27日（日）晴 B地点試掘。
- 7月28日（月）晴 B地点…試掘グリッド掘り下げ、トレンチ掘り、午後雨天中止。
- 7月29日（火）晴 B地点…試掘グリッド掘り下げ。
- 7月30日（水）～8月1日（金） 雨天中止。
- 8月2日（土）晴 C地点…試掘グリッド掘り下げ。
- 8月3日（日）雨 雨天中止。
- 8月4日（月）曇 D地点…試掘グリッド掘り下げ。本調査区域をC地点とすることに決定、ブルトーザーによる表土除去作業開始、それに伴い、土器片多数採集。
- 8月5日（火）晴 C地点…表土除去作業及び土器片採集、D地点…グリッド掘り下げ。
- 8月6日（水）晴 C地点…表土除去作業続行、D地点…グリッド掘り下げ。
- 8月7日（木）晴 D地点…グリッド掘り下げ続行。
- 8月8日（金）晴 C地点…グリッド設定（A～M、1～10、計96グリッド）及びグリッド掘り下げ作業開始。D地点…グリッド掘り下げ。
- 8月9日（土）晴 C地点…グリッド掘り下げ、B-7より表裏両面有目瓦状土器片出土。
- 8月10日（日）晴 C地点…グリッド掘り下げ、B-4より羽口、I-1より青銅板出土。
- 8月11日（月）晴 C地点…グリッド掘り下げ、K-4より長頸壺出土、A地点…実測。
- 8月12日（火）晴 C地点…グリッド掘り下げ続行、A地点…実測。
- 8月13日（水）～8月16日（土） 盆休み。
- 8月17日（日）雨 雨天中止。
- 8月18日（月）晴 C地点…グリッド掘り下げ、グリッド拡張 ((F-9, 10～J-9, 10) 基準ベルト設定(南北1本、東西2本)、A地点…実測。
- 8月19日（火）晴 C地点…グリッド掘り下げ、及びベルトはずし、J-8より鉄片、I-8より円面鏡、F-6より古銭「治平元寶」出土。
- 8月20日（水）曇 C地点…グリッド掘り下げ、ベルトはずし、B-3～C-3に石組み遺構あり。途中雨のため作業中止。
- 8月21日（木）曇 C地点…グリッド・ベルト掘り下げ、G-3より鉛玉出土、試掘グリッド断面実測。
- 8月22日（金）～8月23日（土） 雨天中止。
- 8月24日（日）晴 C地点…雨水排水作業、グリッド掘り下げ、H-2より鉄片出土。

8月25日（月）晴	C地点…グリッド掘り下げ、及びベルトはずし、E-3より古銭「皇宗通寶」出土、試掘グリッド断面実測。
8月26日（火）雨	雨天中止
8月27日（水）曇	C地点…雨水排水作業。
8月28日（木）晴	C地点…グリッド、及びベルト掘り下げ、B地点…試掘グリッド断面実測・平面実測・写真撮影、現場整備開始に伴い、土器片（弥生式他）出土。
8月29日（金）曇	C地点…グリッド・ベルト掘り下げ、J-2、K-5より鉛玉出土。L-2に土器片群あり、M-3より須恵器の蓋他出土、南北セクションベルト実測・写真撮影、試掘グリッド断面写真撮影。
8月30日（土）曇	C地点…グリッド掘り下げ、南北セクションベルトはずし、L-3より壺出土、南西セクションベルト実測、M-3の土器片群出土区実測。
8月31日（日）雨	雨天中止。
9月1日（月）晴	雨水排水作業、C地点…グリッド掘り下げ、東西セクションベルトはずし。遺構検出作業開始（南部）。
9月2日（火）晴	C地点…グリッド掘り下げ、セクションベルトはずし、東西セクションベルト実測。遺構検出作業（南部・中央部）。
9月3日（水）晴	C地点…遺構検出作業（中央部）。M-3区域の実測、K-1・2～L-1・2（土器片群散乱区域）平面実測・写真撮影。G-9より鐵塊出土。
9月4日（木）晴	C地点…遺構検出作業（北部）。遺物取り上げ、D地点…北部グリッド群をI地区、南部グリッド群をII地区と設定。
9月5日（金）晴	C地点…遺構検出面第一回全体平面実測。遺構検出作業続行、D地点…遺構検出作業。
9月6日（土）曇	C地点…全体実測・遺構検出作業続行。D地点I地区…南北セクションベルト実測・写真撮影、遺構検出作業。北東部石組み—内より須恵器蓋の大形破片出土。北東部より鍔の把手出土。
9月7日（日）曇	C地点…全体写真撮影、西北廐土中より紡錘車出土、D地点I地区…遺構検出作業続行。東西セクションベルト実測・写真撮影、北西部より骨出土。
9月8日（月）～9月11日（木）	雨天中止
9月12日（金）晴	雨水排水作業、C地点…遺構検出作業。
9月13日（土）晴	C地点…遺構検出作業、掘立柱状遺構より木質（礎板）出土、D地点I地区…遺構検出作業。
9月14日（日）晴	C地点…遺構検出作業、掘立柱状遺構より礎板出土、遺構実測。

- 9月15日（月） 敬老の日 休み。
- 9月16日（火） 晴 C地点…遺構検出及び実測、掘立柱状遺構より礎板、特殊遺構1より木質・焼種・炭化物・鉄滓出土。
- 9月17日（水） 晴 C地点…遺構検出及び実測、特殊遺構1より木質・鉄片出土。
- 9月18日（木） 曇 C地点…遺構検出、実測、特殊遺構1（北部）より古錢・青磁片出土。
- 9月19日（金） 晴 C地点…遺構検出及び実測、掘立柱状遺構より礎板出土、さらにその西側区域外に柱穴2個あり。
- 9月20日（土） 曙 C地点…遺構検出作業続行、雨のため途中で作業中止。
- 9月21日（日） 曙 C地点…雨水排水作業、遺構検出及び実測。
- 9月22日（月） 曙 C地点…遺構検出及び実測。
- 9月23日（火） 曙 C地点…遺構検出・実測続行、第4号竪穴状遺構より炭出土。
- 9月24日（水） 曙 C地点…遺構検出及び実測。
- 9月25日（木） 曙 C地点…遺構検出・実測続行。
- 9月26日（金） 曙 C地点…遺構検出及び実測、特殊遺構1より鉄出土、また、鉄滓が表面に薄く分布している箇所あり、第6号竪穴状遺構内の井戸掘り下げる。
- 9月27日（土） 雨 雨天中止。
- 9月28日（日） 晴 C地点…雨水排水作業、土礫内雨水排水中、K-3・4、L-3・4グリッド内柱穴より炭化米発見。
- 9月29日（月） 晴 C地点…遺構検出・実測・写真撮影。
- 9月30日（火） 晴 C地点…遺構検出及び実測、特殊遺構1より炭化米出土。
- 10月1日（水） 晴 C地点…遺構検出・実測続行。
- 10月2日（木） 曙 C地点…遺構検出及び実測。
- 10月3日（金） 晴 C地点…遺構検出及び実測続行。
- 10月4日（土） 晴 C地点…遺構検出及び実測、全体実測。
- 10月5日（日） 晴 C地点…遺構実測及び全体実測。
- 10月6日（月） 晴 C地点…遺構検出及び実測、第6号竪穴状遺構内の井戸掘り上げる。第5号竪穴状遺構の南西隅にある焼土内より坏出土。全体実測及び遺構写真撮影。テントをたたみ、道具類を整理・運搬。
- 10月7日（火） 雨 C地点…掘立柱状遺構の礎板取り上げ。道具類の運搬。
- 10月8日（水） 晴 （午前）D地点I地区…配石遺構実測。I・II地区…遺構面上の遺物取り上げ。遺構・遺物の写真撮影。C地点（午前）及びD地点（午後）において、調査整備の作業開始され、遺構、またたく間に消滅する。

昭和56年1月～3月末 遺物整理及び発掘調査報告書作成。（於）信濃国分寺資料館

（宮原洋子）

第3章 層序

中井遺跡C地点は湯川によって形成された河岸段丘の段丘上に位置する、調査区域の標高は457mを測り、西側が高く東側に緩やかに傾斜する。

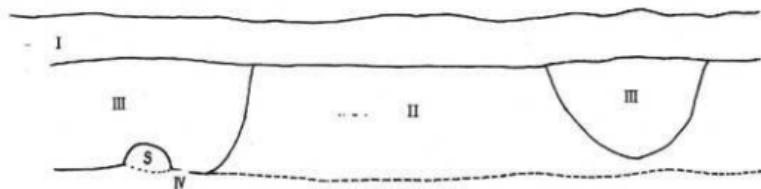
第I層は、暗灰茶褐色土の耕作土で厚さ約15~20cm。

第II層は、明綠色土の溶脱層で厚さ約10~25cmで弱い粘性がある。

第III層は、黒褐色土で粘性が強い。遺構の覆土である。

第IV層は、暗黑褐色土で比較的に粘性が強く粒子が細かい、遺物を包含し遺構はこの第IV層直上において検出される。

また第II層は水田耕作土中に認められる層であり、図3の層序は畑地の為存在しない。（畑地はグリッド・K・L・M列である）



第2図 中井遺跡土層図

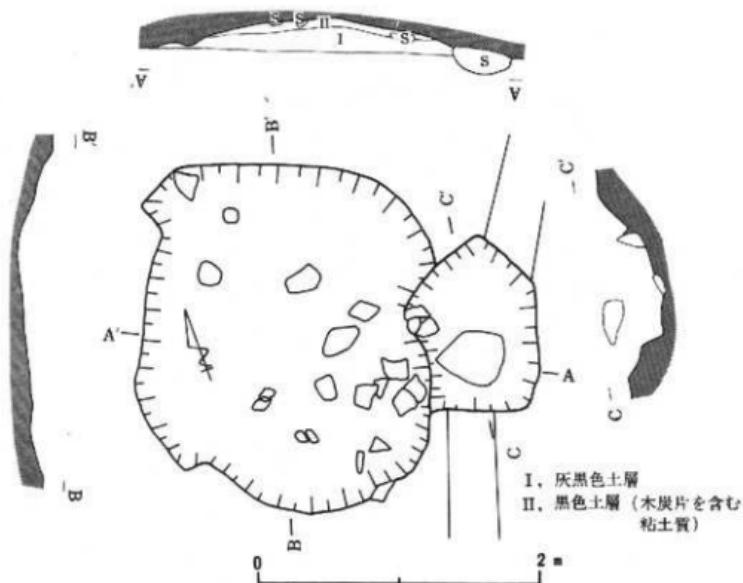


第3図 中井遺跡C地点遺跡全体図

第4章 遺構と遺物

今回の調査に於いて確認した遺構の種別は、全体を知り得るものとして、第1、2、3、4、5、6号までの竪穴状遺構、1基の井戸址、土壙1、特殊遺構1、1軒の堀立柱建築址1、2、3の溝址、炭化米出土ピット5のみである。調査地区的制約から全体をかいまることはできなかったが、時期は平安時代に比定できよう。

第1節 竪穴状遺構



第4図 第1号竪穴状遺構・土壙1・溝1実測図

1) 第1号竪穴状遺構

〈遺構〉

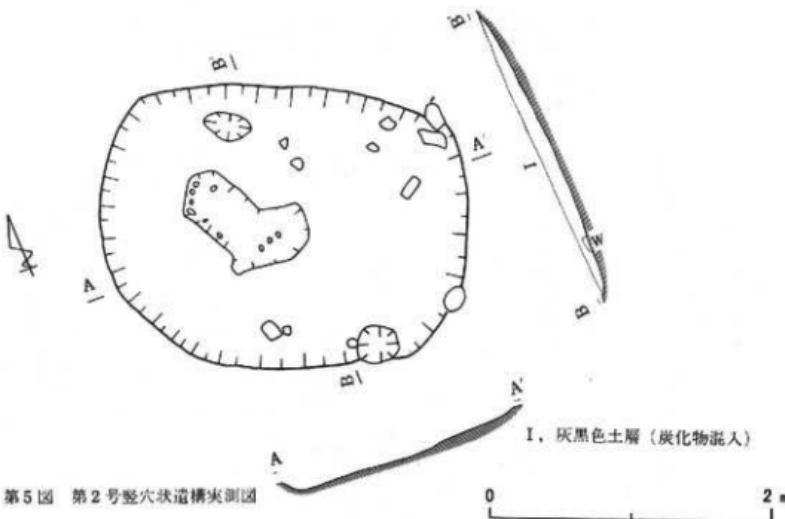
本遺構は、調査区域の北西側に検出される。(I3・I4、J3・J4グリッド中)

プランは、西壁2.50mの長軸と北壁2.10mの短軸を有し、北-40°一東へ長軸を傾かせた隅丸方形に近いプランを呈するが、東壁は土壙1によって切られている。壁はなだらかな傾斜をもって中心部に落ち、中心部の深さは検出面より26cmを測る。また、第1号竪穴状遺構は、茶褐色

色土層（検出面）を掘り込んでおり、覆土は2層（I層：灰黒色で弱い粘性をもつ。II層：黒色で粘性をもち木炭片を含む）に分かれる。床面は粘質でしっかりしている。東側寄りには10~20個ほどの不規則に出土した14cm×18cmほどの石が観察された。また西壁の北隅には、ピットが2箇所検出された。

〈出土遺物〉

遺物は破片で覆土中に散見し、出土数は15片ほどである。器種は、土師器壺形土器（内面黒色処理）、須恵器壺・壺蓋・甕形土器・長頸壺、灰陶陶器である。いずれも小破片で図示できない。



第5図 第2号竪穴状遺構実測図

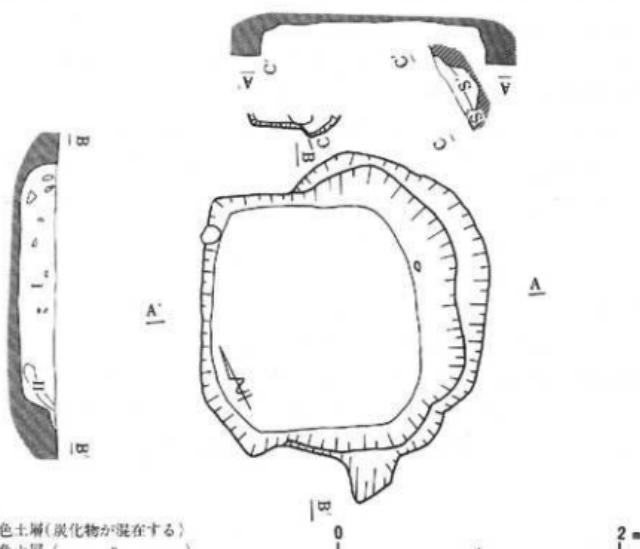
2) 第2号竪穴状遺構

〈遺構〉

調査区域の北側中央付近に検出され、第1号竪穴状遺構の東側に位置する。

プランは、東西の長軸2.64m、北南の短軸2.00mの隅丸方形に近い形を呈する。長軸は、北-31°-東である。鍋底形に茶褐色土層を掘り込んでおり、壁はなだらかな傾斜で中心部に向かって落ちている。中心部は、検出面より12cmの深さである。覆土は1層で、灰黒色を呈し炭化物が混入し、床面に近くなるほど量が多くなり、床面は起伏があり凸凹である。床から壁一面に焼土が分布し、特に、北西の床面に握り拳大の石が10数個散乱している箇所の床は、良く火

が当たって赤褐色をしている。また、北東隅に20cm×10cmほどの河原石を5個有する部分も、焼土で赤褐色を呈している。北西隅には、木炭片が梢円状に残り、南壁の南東隅壁上に、径30cmのピットが検出された。遺物の出土はなかった。



第6図 第3号竪穴状遺構・火床1実測図

3) 第3号竪穴状遺構

〈遺構〉

調査区域北側の最も東寄りに検出される。西側には、第6号竪穴状遺構が存在する。プランは、北壁1.96mの長軸、東壁1.82mの短軸を呈す。短軸方向は、北-26°一東を指す不整方形をしている。壁の深さは、検出面より北壁25cm、東壁25cmであり、茶褐色土層には直に近く掘り込んである。床面は、粘土質を帯びた茶褐色土で、北・東壁が崩れ、床が凹凸している。プランが不整方形を呈している原因であると思われる。また、西壁の北隅の壁上部に、火床1より飛んだ焼土と考えられる部分が、10cm×10cmの円形状に検出された。柱穴等は検出されなかった。覆土は2層である（I層：黒褐色で炭化物が混在している。II層：灰色がかかった黒褐色で炭化物が混在している。このII層は部分的な積である）。

4) 第4号竪穴状遺構

〈遺構〉

本遺構は、調査区域東側の端、ほぼ中央に検出された。

プランは、北南軸2.40m・西東軸2.35mの、不整はあるが、隅九方形に近い形になる。北南軸は、北-35°-西である。壁は、なだらかな傾斜で中心部まで落ちる。中心部の深さは、検出面より25cmで、茶褐色土層に掘り込んでおり、床面は鍋底型を呈する。覆土は、3層（I層：炭化物が点在し、砂混じりの黒褐色土層、II層：炭粉が混在し、黄土色の粘土が点在する黒褐色土層、III層：粘土質の黒灰色土層）である。床面は、中央部を中心に焼土化しており、壁まで焼かれている。北東壁付近には、不規則に河原石が8~15個ほど置かれているが、裏側は焼けて赤茶褐色をしている。西南の床からは、幅15cm・長さ20cm・厚さ0.8cm程の板片も出土したが、図示できなかった。他に、東南隅壁上に、32cm×26cmのピット、西南隅床面に、22cm×26cmのピットが検出された。

〈出土遺物〉

出土した遺物はすべて覆土中であり、遺物量は少ない。器種は、須恵器环形土器（付け高台）・灰釉陶器皿形土器（内面は不透明な乳白色に淡緑色の釉が点在し、外面は不透明な乳白色が施釉されている）と、根高台で櫛鉗痕が明瞭に形つけられた〈美濃系〉の山茶碗、他に、図示はできなかつたが、灰釉陶器碗形土器、常滑の鉢、須恵器坪・坪蓋、内面が黒色処理された土師器坪が出土している。

5) 第5号 竪穴状遺構

〈遺構〉

調査区域西端の中央付近に位置する。

プランは、検出状態が非常に悪く、正確に捉えることはできないが、鍋底を呈する階円形になると思われる。

〈火床2〉

第5号竪穴状遺構に付属する施設であり、検出に際して、この箇所が一番明瞭に捉えることができる。

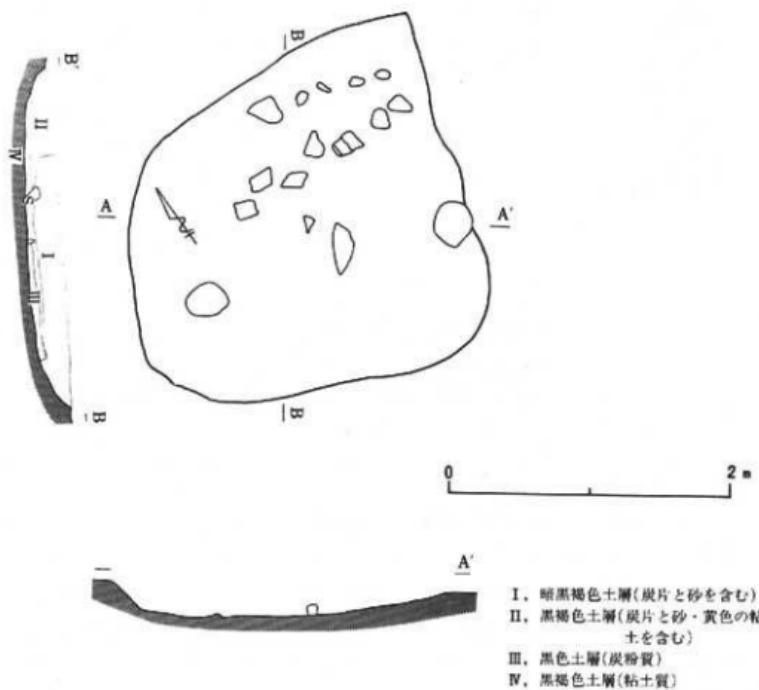
プランは、焼土の範囲が、北南軸56cm・西東軸53cmを呈する円形である。検出面（茶褐色土層）より掘り込んでおり、層は4層をもつ（I層：褐色土、II層：黒褐色土、III層：灰褐色土、IV層：炭化層（黒色））。焼土の深さは検出面より7cmほどであり、底は凹凸である。中央部には、内面が黒色処理された土師器の环形土器が、正立状態で出土し、北側壁には、10cm前後の鉄滓が2個認められ、付近からは、小さな鉄滓が数多く検出された。また、焼土の検出面上の西南隅より、羽口片1点が出土した。以上により、火床が付設され、鉄滓や羽口片などの出土から観察して、なんらかの鍛冶遺構ではないかと思われる。

〈出土遺物〉

・遺物はすべて覆土中であり、床面からの出土はない。遺物はほとんど破片であり、図示できたものは、須恵器長頸壺・變形土器・壺形土器、土師器壺形土器である。須恵器壺形土器(15)は、外面に墨書きされているが、どの様な文字かは判断つかない。土師器壺形土器は2点とも、内面黒色処理されている。他に図示されていないが、土師器杯で高台付きのもの、須恵器壺蓋などが出土地している。

6) 火床1

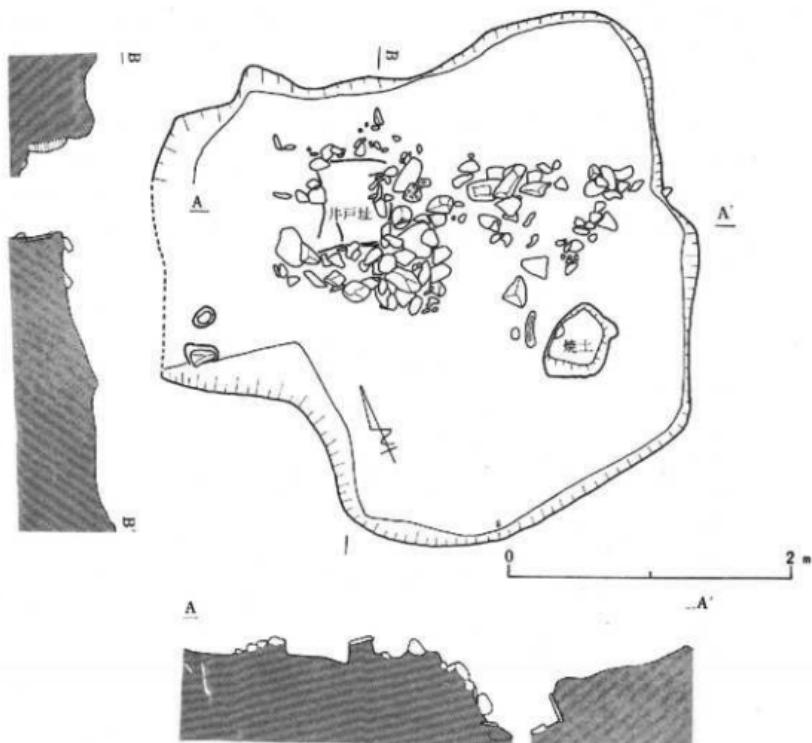
第3号竪穴状造構の北壁から、48cm北側に隣接するように位置し、長軸65cm・短軸50cmの不整橢円形を呈する。すでに壊れており、焼土上に石が集まっている。プランは、鍋底上を呈し、2層(I層：赤茶色・II層：赤茶褐色)に別れる。I層は6cm、II層は11cmであり、検出面より中央部深さが17cmである。焼土内より出土遺物はなく、時期不明であるが、壺ではないかと思われる。



第7図 第4号竪穴状造構実測図

〈出土遺物〉

遺物は、『火床2』の焼土内よりすべて出土したものである。器種は、土師器壺形土器のみで、3点ともに、内面黒色処理がなされている。



第8図 第6号竪穴状遺構・井戸址実測図

6) 第6号竪穴状遺構

〈遺構〉

本遺構は、調査区域北側の東隅、第3号竪穴状遺構の西側に確認される。第6号竪穴状遺構と呼称するか、井戸址と伴うと思われる竪穴状遺構のことである。

プランは、北壁3.36m・東壁3.08mを呈し、西壁隅が欠けた不整形である。壁は、ほぼ直に落ち、茶褐色土層の検出面より約10cmの高さをもつ。床面は、不明確で、柱穴を検出することはできなかった。東南部集石近くに、40cm×60cmほどの円形の焼土を確認するが、炭化物が散乱する程度で、カマドなどの施設ではない。

〈出土遺物〉 図2-6号(1-5)

出土遺物は少なく、すべて覆土中であり、図示できたものは5点である。須恵器環形土器は、回転糸切り痕が残り、火捺が明瞭に付く(31)。(32)は、土製品としたが、用途・形態がまったくわからない土師質土器である。図示できなかったが、他に、高台付きの土師器 環形土器、外面に黒色の自然釉がかかった短頸瓶の口縁・胴部が出土している。

7) 井戸址

〈遺構〉

第6号竪穴状遺構の精査の際、遺構内北西部に崩れた石積みに伴って検出されたもので、床面を切って井戸址が掘り込まれている検出状況を考えると、竪穴状遺構と井戸址は相関関係がもつものと考えられる。形態は、地表設備である井桁は崩壊しているが、石積み(径10cm~30cm大の河原石)を横板の直上に据え、床面に径1.50mの不整四辺形の掘り方をもち、径約70cmの方形に横板(現存長70cm×幅25cm×厚3.2cm)を設置する。北・南面の横板はほぼ残存するが、東・西面の横板は朽ちてしまい、部分的にしか残っていない。地下設備の井筒部分は、横板の裏側から東面2枚・西面4枚(現存長131cm~114cm×幅32cm~10.5cm×厚2.5cm×4cm)の縱板が方形に据えてある。また、横板・縱板の組み方などは、角の腐蝕がはなはだしく捉えることができなかった。井戸内には、黒褐色土と(10~20cm)大の礫が落ち込んでおり、方形横板の外側には、灰青色の粘土が詰まっている。井戸址は、地圧により西側と東側から押され、鼓状に変形している。なお、調査期間等の制限により、井戸址の底は調査できなかった。崩壊している石積み井桁に付属する石囲みの箇所は、東側掘り方の傾斜上、床面に続いている。また、使用されている石は、同質の河原石で、10cm~30cm大である。この箇所は崩れており、如何なる設備かは推定でき得なかった。

〈出土遺物〉 (34~37)

出土遺物は、井戸址から図示できたものは4点、(34)は須恵器环蓋・(35)は須恵器の長頸壺で口縁にリョウを有する。(36)は土師器變形土器で口縁部がゆるく外反していく。(37)は土師器變形土器で口縁が短かく外反し、外面の胴部が始まる箇所から刷毛状工具による整形が、縱方向にされている。なお、他に図示できなかったが、土師器環形土器で口縁部を回転削りをし薄くしたもの、環形土器で内面黒色処理されたものが、出土している。

第2節 特殊遺構

〈遺構〉

本遺構は調査区域南側の東寄りに位置し、北東に長軸を偏する。プランは南側が柄部、北側が頭部の様なパイプ型を呈し、長軸（北南）13m 90cmを有する不整長方形である。南側壁部分は短軸（東西幅）2m 90cmを有し、南壁は32°のやや急な傾斜で茶褐色土層（検出面）に掘り込み壁を造り底部で40cm掘り込む。層はほぼ2層（I層茶褐色土層、II層灰褐色〈岩化物を含む〉）で局部的な層としてIII層黒灰褐色（炭化物）土層が存在する。またII層に炭化物が多量に含まれ黑色化する層が同一層として部分的にある。この層の灰褐色粘土は灰が堆積し層となつたのではないかとも考えられる。床面は粘り床状になり南壁より1m 60cm北寄りに「溝2」が西壁を切って造られ、その30cmほど北の西壁端を抉るように径約80cmの半円状を呈する「火床3」が造られている。南壁下床面から河原石が点在し、又この壁周辺には漆を塗った木製品と桃の実などが数点出土する。中央部付近では河原石の数が多くなり、南壁端から4m北には火熱によって変色した石の集石が認められ、6mほどの箇所には大小様々（径20cm～70cm）の河原石が西壁に沿ってなだれ落ちるよう床一面に広がる。この間の壁近くからは鉄片が検出された。

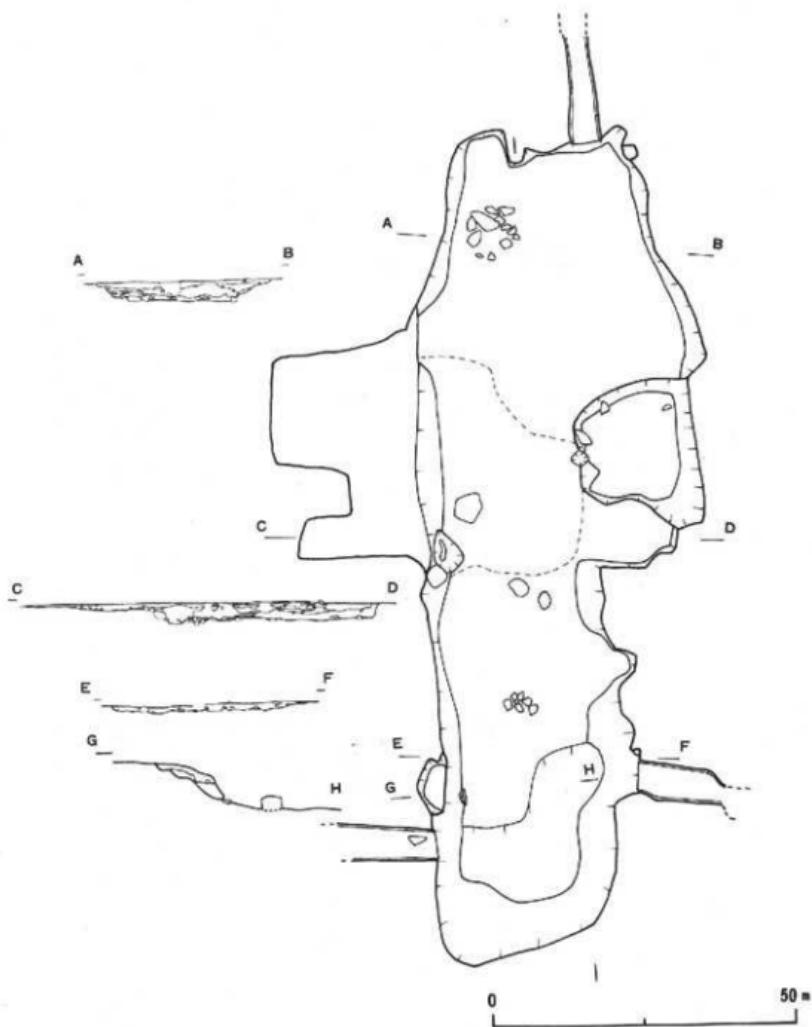
南壁から6m 50cm、遺構のほぼ中央部分で東西へ飛びだす形状を呈す中央と東側部は同一の底部を有し、中央の底部は南側から続く西壁に沿って河原石が散乱し、東側部は南北軸1m 70cm×東西軸1m 40cmのほぼ方形に近い平らな底部を有し、礫が混入する壁が周辺を巡る。西側部は一段高く西壁はなだらかに上り形状は長軸3m 50cm×短軸2m 40cmの不自然な長方形を呈する。底部は検出面より10cmであり、径5cm～10cmの礫が入る。中央部と西側部との段差が壁になり径10cm～25cmほどの河原石が落下した状態で壁を埋める。北側は北側端より約4m南で中央部の底部とがくの字状に変化し、短軸3m 40cm×長軸4m 70cm、深さは検出面より8cm～20cmを呈する不整長方形である。壁には径10cm～50cmの河原石が散乱して埋め、底部は径10cm～20cmの礫が詰り中央部に向ってなだらかに傾斜する。また、北側北壁は「溝3」によって切られる。

〈遺物〉

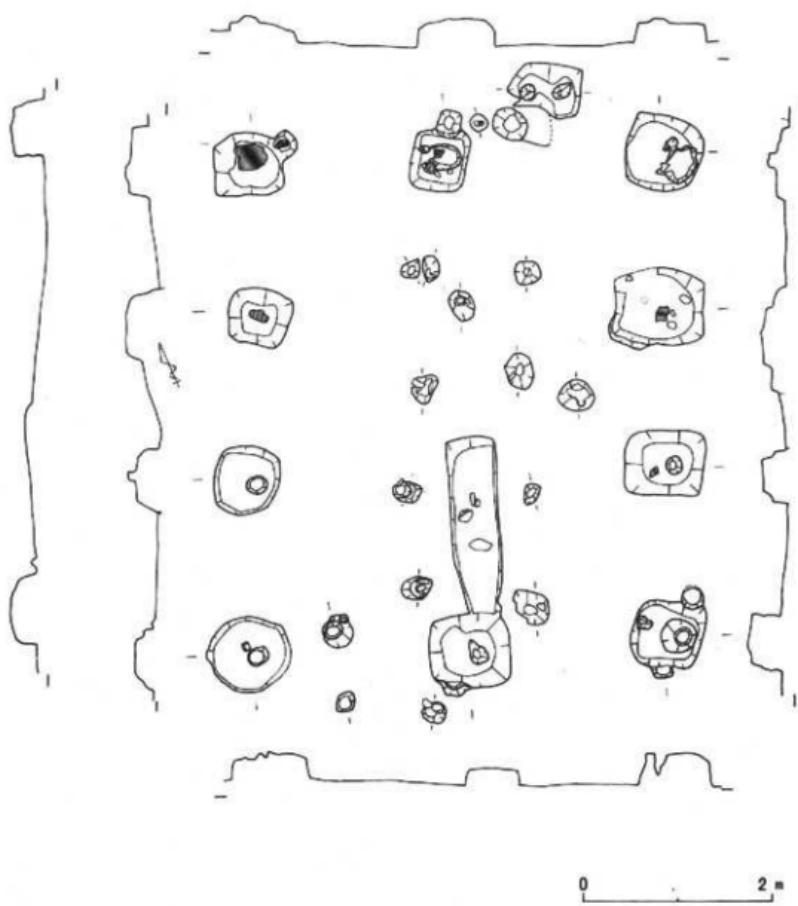
遺物はほぼ全体から出土する。

確認できた器種は青磁の碗形上器、美濃系で標高台を有する山茶碗、美濃系の灰釉陶器で体部がやや内湾し口縁が外反する碗、灰釉陶器の片口鉢形土器、須恵器の長頸壺に付高台の杯形土器、土師器の耳皿、また須恵器で脚部だけではあるが十字の透しが入った硯の脚が出土している。

桃の実、漆塗りの木製品は遺構北側の北壁近くの床面より出土し、表面が風化した銅鏡が南側の南壁近くより出土する。土器の出土は全て覆土中である。



第9図 特殊遺構実測図



第10圖 挖立柱建築址 1 實測圖

第3節 堀立柱建築址1

〈遺構〉

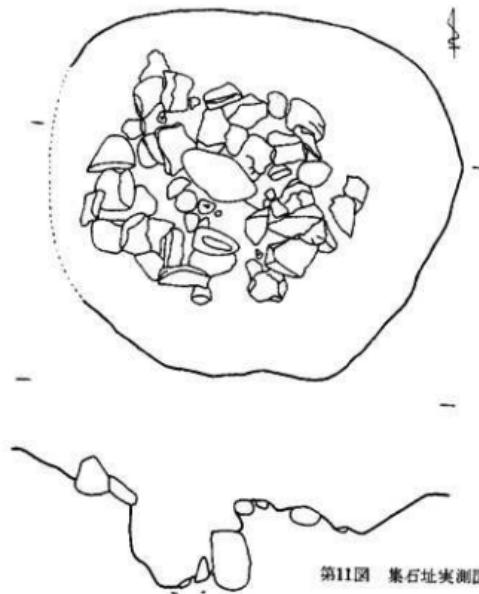
本遺構は調査区域東側端の南隅に位置し北に火床2がある。

プランは長軸方向に3間(1間間は間隔1.8m)、短軸方向に2間(1間は間隔2.1m)を有し、2間3間の柱穴が10個方形に配列する。また方形配列の内側に径35cm~40cmのピットが15個不規則に存在する。長軸(北南)の方角は北-27°-東を指す。

柱穴の掘り方は0.6m×0.65m~0.93m×0.8mの方形で深さは30cm~39cmでありほぼ同一な規模を持つ。壁はほぼ直に立ちあがり、底面はしまりがあり、床面上に小穴がある柱穴六個、(soc1-3、4、6、7、9、10)と、底部中央部に礎板らしき木片(厚さ3mm、径27~7cm)を残存させた柱穴四個(soc1、2、5、8)、木片が壁ぎわに残存した柱穴1個(soc1、9)が確認された。

床面上に、礎石状の木片が残存した柱穴は、木片を取り上げ後底部を観察したが下に小穴痕の発見は出来なかった。全体の配列中 soc1-6は1.9m×0.5m深さ約10cmの長方形の溝を有する。

また、この他に若干の堀立柱建築址と思われる遺構が検出されたが検討が充分でないので本稿においては除外した。



第11図 集石址実測図

第4節 集石址

調査区域南側隅、壠立柱建築址1の東側に位置する。形状は径約1.3mの円形を呈する堀り方の上に1m×70cmの鐘円状に河原石を雜然と集石したものである。深さは検出面より集石内で4.5cmであり、覆土は土層で炭化物を含む暗黒褐色土層が堆積していた。

遺物は覆土内より数片出土したが細片の為時期等は不明である。

第5節 土壙址

2) 土壙1

土壙1は第1号竪穴状遺構の東壁と溝1を切って造られている

プランは、北南へ1.22mの長軸、西南へ92cmの短軸をもち、北-25°一東の傾きを指す卵型を呈する。プラン上部には38cm×36cmの隋円形の河原石が乗り、内部で最も深い箇所は検出面より47cmを測る。また、上部より30cmほど下がった縁にそって礫が出土した。土壙内覆土は茶褐色をし、一度掘り上げた後、再度埋めもどした結果であると考える。遺物の出土はなかった。

以上から、土壙墓の性格を有するものではなきかと考える。時期の問題は、出土遺物がなく判りかねるが、第1号竪穴状遺構と溝1よりは新しくなる。

第6節 溝 址

3) 溝1

第1号竪穴状遺構の東壁寄りを通っている。幅は30-35cmあり、溝方向は南北で、北東部分は暗渠排水路によって切られ消失する。南部分は調査区の西側に向かうと思われるが、使用目的が何かは判らなかった。時期は土壙1によって切られているので、それ以前のものであるが、出土遺物が少なく確定はできない。

溝2

調査区域の南側、特殊遺構Iを狭んで西から東へ流路をとり、幅は40cm~50cmである。遺構を狭んではいるが、関係性があるかは判然としない。遺物の出土はなく時期不明。

溝3

調査区域中央部北東方向より南側、特殊遺構Iの北壁にいたるまでの間に幅40cm~50cmで存在する。北東部分は暗渠排水路によって消失し、南側は特殊遺構Iによって切られる。

第7節 炭化米出土ピット

調査区域北側第1号竪穴状遺構の北側に集中してあるピット群中、P16、P12、P18、P19、P20、としたピット中より炭化米が検出された。全て径約20cm～50cmのピット中とピット周辺に炭化した穀が検出された。また、他の個所から炭化米は検出されなかった。

炭化米について

発掘調査も進んだ9月28日、たまたま炭化米の出土していることを知ることができた。連日の雨天で調査が難行していたが、C地点の西北隅にあたるK4、K3グリッド内で発掘し得た土壌のうちP16内に雨水が充満となっており、そこに炭化米の浮遊しているのを知ることができた。P16を中心に調査したところP16、P17、P18、P19、pite内、P20とその周囲に炭化米を採集した。さらに特殊遺構内からも2粒採集し得た。このうちもっとも多量に出土したのはP16とP20である。P16からは炭化米約2000粒と、穀粒と考えられるもの約100粒あり、炭化米のうち形態が比較的良好なもの約1000粒、破碎されたもの約1000粒とほぼ同数に分けることができ、また穀粒と考えられるものの一部に芒のあるもの、穂についたまま炭化しているものもある。P20からは約600粒の炭化米を数えることができた。

P16、P20から出土した米粒のうち比較的形が完全なものの中から無作為にそれぞれ100粒づつ計測した結果は第1表A及び第2表である。長さ4.3mm～5.2mmまでが200粒のうち164粒で82%であり、その中では2.0mm～3.0mmの間に182粒で91%を占めており、本遺跡出土の炭化米のタイプということができる。

また直良信夫氏は日本出土米をつぎの四種に分類されている。

種類	対象粒数	長さmm	幅mm	長/幅
長穎種	100種の平均値	4.0	2.3	1.7
日和種	#	4.6	2.5	1.9
下須川種	90#	4.3	3.0	2.1
インド種	30#	5.5	2.2	2.6

本遺跡出土米は細長形であり、直良氏の分類からは日本種の米粒ということができる。

しかし数的な処理からは一応このような結論となるが頻度表をみるとその幅の広いことから他種の米粒もあるということができる。本遺跡が平安時代後期と考えると、平出遺跡出土米などと比考するとき、多種とも考えることができる。

〈五十嵐幹雄〉

第1表 炭化米計測表

No	長さ	幅	長/幅	No	長さ	幅	長/幅	No	長さ	幅	長/幅	No	長さ	幅	長/幅
1	5.2	2.9	1.79	26	3.3	2.3	1.43	51	4.8	2.2	2.18	76	5.9	2.8	2.11
2	6.5	2.2	2.03	27	4.7	2.8	1.68	52	4.6	2.1	2.19	77	5.2	2.9	1.79
3	5.2	3.3	1.07	28	4.5	2.2	2.05	53	4.4	2.1	2.10	78	4.4	2.7	1.63
4	5.0	2.5	2.00	29	4.8	2.6	1.85	54	4.4	2.2	2.00	79	4.4	2.4	1.834
5	武.0	3.0	2.00	30	5.0	2.4	2.08	55	4.8	2.0	2.40	80	5.0	2.4	2.08
6	4.8	2.0	2.40	31	4.8	2.4	2.00	56	4.6	2.4	1.97	81	5.0	2.2	2.27
7	4.7	2.4	1.95	32	7.6	3.7	2.05	57	4.7	2.9	1.62	82	4.3	2.6	1.65
8	4.8	2.7	1.78	33	5.3	2.6	2.04	58	5.0	2.7	1.85	83	5.0	2.4	2.08
9	6.2	2.9	2.13	34	4.9	2.9	1.69	59	5.4	2.7	2.00	84	4.6	2.7	1.70
10	4.8	3.2	2.50	35	4.0	2.0	2.00	60	4.7	2.5	1.88	85	4.9	2.6	1.88
11	5.2	2.4	2.17	36	4.7	2.5	1.88	61	4.4	3.1	1.42	86	4.8	2.2	2.18
12	4.8	2.7	1.78	37	4.7	2.6	1.80	62	4.1	2.3	1.78	87	4.6	2.8	1.64
13	5.0	2.7	1.85	38	5.6	2.6	2.15	63	2.9	2.2	1.31	88	4.3	2.0	2.15
14	5.0	2.6	1.92	39	5.6	2.7	2.07	64	4.4	2.1	2.10	89	5.9	3.9	1.51
15	5.0	2.2	2.72	40	4.7	2.0	2.35	65	4.8	2.5	1.92	90	4.8	2.5	1.92
16	4.8	2.8	1.71	41	4.9	2.8	1.75	66	5.6	2.0	2.80	91	4.5	2.3	1.96
17	5.0	2.9	1.72	42	4.7	2.8	1.68	67	4.8	2.0	2.40	92	3.1	2.6	1.19
18	5.0	2.0	2.50	43	5.5	2.8	1.96	68	4.6	2.0	2.30	93	4.9	2.6	1.88
19	5.2	2.6	2.00	44	5.0	2.5	2.00	69	6.0	2.7	2.00	94	4.7	2.2	2.14
20	4.3	2.4	1.79	45	5.8	2.8	2.07	70	4.8	3.1	1.55	95	4.9	2.5	1.96
21	4.5	2.2	2.05	46	5.0	3.0	1.67	71	6.0	3.4	1.76	96	4.8	2.8	1.71
22	5.2	2.4	2.17	47	4.8	2.0	2.40	72	5.0	2.0	2.50	97	4.9	2.8	1.75
23	5.0	2.3	2.17	48	4.8	2.3	2.09	73	5.6	3.0	1.87	98	5.0	2.5	2.00
24	5.0	2.7	1.85	49	4.7	2.6	1.81	74	4.7	2.8	1.68	99	4.6	2.2	2.10
15	5.3	3.0	1.77	50	4.8	2.9	1.66	75	5.0	2.4	2.08	100	4.7	2.4	1.96

第2表 炭化米計測表

No.	長さ	幅	長/幅	No.	長さ	幅	長/幅	No.	長さ	幅	長/幅	No.	長さ	幅	長/幅
1	4.8	2.2	2.18	26	4.3	2.3	1.87	51	6.0	2.6	2.30	76	5.0	2.5	2.00
2	4.7	1.5	3.13	27	4.3	2.3	1.87	52	4.5	2.4	1.88	77	4.7	2.4	1.96
3	4.6	1.7	2.71	28	4.0	2.2	1.82	53	5.2	3.0	1.73	78	4.8	3.0	1.60
4	5.5	2.6	2.12	29	5.3	2.1	2.52	54	4.2	2.0	2.10	79	4.0	2.5	1.60
5	5.0	2.8	1.79	30	4.4	2.0	2.20	55	4.8	2.2	2.18	80	5.0	3.0	1.67
6	4.5	2.4	1.88	31	5.2	2.2	2.36	56	4.5	1.8	2.50	81	4.3	2.6	1.65
7	4.5	2.6	1.73	32	5.0	2.6	1.92	57	5.0	2.4	2.08	82	5.0	2.4	2.08
8	4.5	2.2	2.05	33	6.2	2.4	2.58	58	4.4	2.6	1.69	83	4.5	2.6	1.73
9	5.0	2.4	2.08	34	4.8	2.3	2.07	59	4.3	2.0	2.15	84	5.0	2.0	2.50
10	4.8	3.6	1.33	35	4.4	2.0	2.20	60	4.5	3.0	1.50	85	4.8	3.0	1.60
11	4.5	3.0	1.50	36	4.5	2.2	2.05	61	5.0	3.2	1.56	86	5.2	2.1	2.48
12	5.0	3.0	1.67	37	3.2	1.8	1.78	62	4.0	3.3	1.30	87	4.3	2.0	2.15
13	4.8	2.6	1.85	38	4.8	2.7	1.78	63	4.0	2.5	1.60	88	4.3	2.3	1.87
14	4.8	3.0	1.60	39	5.0	2.0	2.50	64	4.4	2.5	1.75	89	4.5	2.1	2.25
15	4.6	3.0	1.53	40	4.6	2.0	2.3	65	4.6	2.2	2.09	90	44.8	2.0	2.40
16	48	2.6	1.85	41	4.5	2.5	1.80	66	5.0	3.0	1.67	91	4.5	2.2	2.05
17	4.1	2.3	1.78	42	4.6	2.4	1.97	67	4.0	2.4	1.67	92	5.0	2.4	2.08
18	4.8	2.5	1.92	43	4.6	2.6	1.77	68	3.5	2.3	1.52	93	4.7	2.9	1.62
19	4.1	2.0	2.05	44	4.5	2.4	1.88	69	4.8	2.8	1.71	94	4.0	2.0	2.00
20	4.5	2.6	1.73	45	4.8	2.0	2.40	70	4.3	2.9	1.48	95	5.0	2.0	2.50
21	5.1	3.8	1.34	46	4.3	2.5	1.72	71	4.7	2.8	1.68	96	4.8	2.0	2.40
22	6.0	2.8	2.14	47	4.2	2.4	1.75	72	5.7	2.5	2.28	97	4.8	2.0	2.40
23	5.0	2.6	1.92	48	4.0	2.0	2.00	73	4.7	2.4	1.96	98	5.0	2.5	2.00
24	5.0	2.8	1.79	49	4.5	2.0	2.25	74	5.6	3.4	1.65	99	4.8	2.5	1.92
25	5.0	2.5	2.00	50	4.8	2.4	2.00	75	5.8	2.8	2.07	100	5.9	2.5	2.36

出土国宝・重要文化財

遺物番号	器種	法量(cm)	口径 口径 距離	形態上の特徴		手法上の特徴		船主	焼成	色調	出土状態	備考
				付高台	付高台	付高台	付高台			外側	内側	
特殊造様 1												
1 瓢	碗			3.6 付高台				良好	青緑色	青緑色	覆土	青緑・小片 山茶碗・土 (美濃系)
2 瓢	碗			6.8 付高台 (標高台)				良好	白色	白色	覆土	白色
3 瓢	碗			6.8 付高台				良好	乳白色	乳白色	灰白色	灰白色
4 片口鉢	片口鉢	13.6	10.4 付高台					良好	灰白色	灰白色	灰白色	灰白色
5 瓢	片口鉢	30.0	17.0 体部や内側に口縁部外反					良好	深緑色	深緑色と乳白色	灰白色	灰白色
6 瓢	片口鉢		9.6 脊部に十字の透かくが彌られる。					良好	灰白色	灰白色	灰白色	灰白色
7 瓢	环		11.0 付高台、体部はほぼ直線的					良好	青灰色	青灰色	青灰色	青灰色
8 环	环		13.4 付高台					良好	青灰色	青灰色	青灰色	青灰色
9 环	环	4.3 14.4	9.0 付高台					良好	青灰色	青灰色	青灰色	青灰色
10 环	环		11.0 付高台、体部はほぼ直線的					良好	青灰色	青灰色	青灰色	青灰色
11 長颈瓶			13.4 付高台					良好	青灰色	青灰色	青灰色	青灰色
12 牙皿		1.3	9.0 付高台					良好	青灰色	青灰色	青灰色	青灰色
第3号笠穴状遺構												
13 長颈瓶			27.8 内・外面クロコロ成形(整形) (自然輪かかわる)(右回転)					良好	青緑色	青緑色	灰白色	灰白色
14 (?) 瓢	瓢	19.4 内・外面クロコロ成形(整形)(右回転)						良好	青緑色	青緑色	灰白色	灰白色
15 环	环	16.0 11縁や外反						良好	青緑色	青緑色	灰白色	灰白色
16 环	环	13.4 体部内側気味						良好	青緑色	青緑色	灰白色	灰白色
17 环	环	7.0 上げ底						良好	青緑色	青緑色	灰白色	灰白色
18 环	环	6.6 上げ底						良好	青緑色	青緑色	灰白色	灰白色
19 环	环	6.0 体部直線的						良好	青緑色	青緑色	灰白色	灰白色
20 环	环	2.5 体部内側気味						良好	青緑色	青緑色	灰白色	灰白色
21 环	环	13.0 体部直線的						良好	青緑色	青緑色	灰白色	灰白色
22 环	环	3.7 1.4 6.4 体部内側気味						良好	青緑色	青緑色	灰白色	灰白色

第4号堅穴状遺構

23	～碗		5.4	付高台（腹高台）	ロクロ成形、面板糸切り	小砂	良好	灰白色	灰白色	覆土内	川苔機・小片 (美濃系)
24	三		6.6	付高台	ロクロ成形、内外面施	n	n	灰色	灰色	n	灰陶器小片
25			11.0	付高台	ロクロ成形	n	n	黑褐色	黑褐色	n	須恵器・小片

第5号堅穴状遺構

26	环	4.2	13.8	6.0	体施毛織物、口縁やや外反 上げ底	ロクロ成形（底部側縫物ナデ） 内面黒色處理、面縫糸切り（右回転）	小砂	良好	黄褐色	黑色	覆土内	土師器 ・小片
27	n		13.8			ロクロ成形、内面黒色處理	n	n	n	n	n	
28			11.4		体部内側火候味	ロクロ成形、内面黒色處理	n	n	橙褐色	n	n	

第6号堅穴状遺構

29	壺	7	18.2	6.6	長頸部の口縁 底部と附近のみ	ロクロ成形	小砂	良好	黑灰色	灰色	覆土	須恵器小片
30	甕	n	17.0	7.0	底部と附近のみ 上げ底	ロクロ成形、回転糸切り（右回転） n	n	n	淡褐色	n	n	外
31	环		18.0			ロクロ成形、内面黒色處理	n	n	淡灰黑色	n	n	須恵器小片 内側
32	n		13.8			ロクロ成形、内面黒色處理	n	n	灰黑色	n	n	外付られ る。
33	土製品		18.8			ロクロ成形、内面黒色處理	n	n	橙色	n	n	土師器小片

井戸址

34	蓋		15.4		蓋である。 口縁部に輪帶を付す。長頸壺	ロクロ成形（右回転）	小砂	良好	黑灰色	青灰色	井戸	須恵器小片 外
35	蓋		17.0		口縁部のるく外反する。 口縁部外反・長脚	ロクロ成形（右回転） n	n	n	橙褐色	n	n	須恵器小片 内側
36	蓋		18.0			ロクロ成形	n	n	n	n	n	土師器小片
37	蓋		18.8			帽子ナデ・ヨコナナデ	n	n	n	n	n	
遺構出土土器・灰陶器												
38	碗	5.3	14.8	6.8	付高台。体部や内 付高台	ロクロ成形、内面透明な物が掛る。 右回転	n	n	灰白色	灰白色	日地点 G-5	灰陶器・素 灰陶器・小片 (尾北系)
39	碗		10.2			ロクロ成形、内面透明な物に乳白色の 輪が掛る。かきわ焼痕、右回転	n	n	n	n	n	表採 (尾北系)
40	碗		8.0	n		ロクロ成形、かきわ焼痕	n	n	n	n	n	C-3
41	皿		8.0	n		ロクロ成形、底部回転磨削。右回転	n	n	n	n	n	L-1

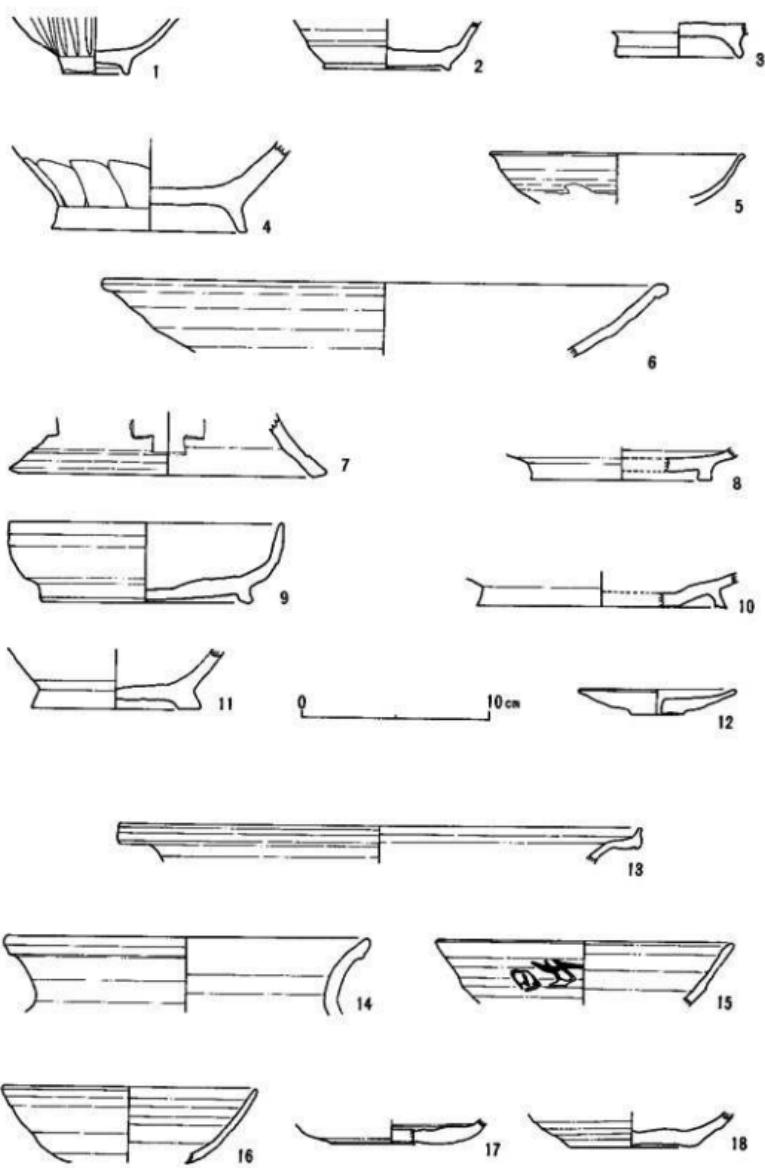
42	皿	1.5	8.6	8.0	付高台	ロクロ成形・底部回転鋸切り。右回転 ロクロ成形・口縁部に緑色の輪が点在。 ロクロ成形・内・外側に緑色の輪が部分的 に掛る。底部回転鋸切り、右回転。	良好	灰白色	灰白色	L-1 灰褐色系。小片 (尾北系)	
43	皿	8.0	5.6	体高内 付高台	"	ロクロ成形・底部回転鋸切り。右回転 ロクロ成形・内・外側に緑色の輪が部分的 に掛る。底部回転鋸切り、右回転。	"	"	B-3 C-2 Z	(東濃系) (尾北系) (尾北系)	
44	長颈瓶	10.0	"	"	"	ロクロ成形・内面底に淡緑色の輪が掛る。	"	"	J-2 H-8	(東濃系) (尾北系)	
45	長颈瓶	"	"	"	"	ロクロ成形、外面淡緑色の輪が掛る。	"	"	Z	(東濃系)	
46	(?) 盆	"	"	"	"	ロクロ成形	"	"	"	(達松系)	
47	蓋	"	"	"	"	ロクロ成形	"	"	"	"	
48	片口鉢	11.2	付高台	"	"	ロクロ成形・内面に白色と淡緑色の 輪が掛かる。右回転	"	"	"	"	
49	長颈瓶	7.2	"	"	"	ロクロ成形・外面に白色と淡緑色の 輪が掛かる。	"	"	"	"	
須恵器											
50	盃	3.1	"	19.6	天井部端平・両半つまみ	リフジ模様・天井部直角鋸切り。天井部に 黒く点在する。右回転	良好	黒緑色	灰青色	M-3 須恵器	
51	盃	3.4	"	16.0	天井部端平三角形。両半つまみ	リフジ模様。天井部回転鋸切り。右回転	"	灰白色	灰白色	1-9 H	
52	"	"	"	"	扁半つまみ	"	"	灰青色	灰青色	1-7 H	
53	"	"	"	"	つまみ内部にえぐれる。	ロクロ成形・天井部回転鋸切り	"	灰白色	灰白色	B-5 H	
54	"	"	"	"	"	"	"	不良	黄褐色	C H	
55	"	"	"	"	つまみ(錐宝珠形)	ロクロ成形	"	灰青色	灰青色	J-8 H	
56	"	"	"	"	"	ロクロ成形・天井部端直角鋸切りで 天井部直角鋸・口縁部端直角鋸で 天井部外反、底部に丸味。	"	"	灰褐色	M-3 H	
57	"	6.7	"	21.0	"	ロクロ成形・天井部回転鋸切り。左回転	"	灰褐色	灰褐色	L-3 H	
58	杯	4.2	14.0	7.6	口縁外反、底部に丸味。	ロクロ成形・底部凹凸鋸切り。	"	不良	灰褐色	G-3 H	
59	"	4.5	12.9	9.0	体部直線的・底部に丸味	"	"	良好	灰白色	K-1 H	
60	"	3.7	12.0	5.2	"	ロクロ成形・底部凹凸鋸切り。	"	良	灰黑色	Z H	
61	"	"	11.6	付高台	ロクロ成形・底部凹凸鋸切り。右回転	"	"	良好	灰白色	H-8 H	
62	"	3.9	13.6	6.6	上げ底、体部直線的	ロクロ成形・底部凹凸鋸切り。	"	良	棕色	B地點 G-6 H	
63	"	3.9	13.4	6.6	"	"	"	良好	灰色	K-4 H	
64	"	3.5	13.2	7.4	上げ底、口縁部わずかに外反	右回転	"	不良	灰褐色	B地點 H	
65	"	3.9	12.2	4.1	体部直線的	ロクロ成形。回転糸切	"	良好	灰褐色	1-4 H	

66	矢	12.0	口縫や外反		クロロ成形。									
67	"	12.0	19.8	口縫のみ	"	"								
68	長颈瓶	6.0	肩部から脚部にかけて縫や かかる縫をする。		クロロ成形、底部回転系切り。右側板									
69	"	6.0	底部のみ		"	"								
70	"	6.6	底部のみ		クロロ成形、右回転。									
71	"	11.6	付高台		クロロ成形、右回転。 口縫が掛る。									
72	横 罐	12.4	11.6	口縫部のみ	クロロ成形、ヨコナデ	"	"							
73	"	29.2	29.2	口縫部のみ	クロロ成形、外面叩打。	"	"							
74	焼	18.6	18.6	口縫部の字形に外反	クロロ成形。外前平行叩打。	"	"							
75	"	20.0	11.0	口縫部のみ	クロロ成形。前面叩打。右側板: ロクロ成形。	"	"							
76	長颈瓶	11.0	11.0	付高台	クロロ成形。底部回転底切り。	"	"							
77	"	7.8	7.8	丸底	クロロ成形。	"	"							
78	鉢	30.0	30.0	口縫のみ	クロロ成形。下部に淡褐色物が点在する。	"	"							
79	円面甌	16.4	16.4	上面のみである。	クロロ成形。	"	"							
80	碗	17.4	17.4	脚部の1部分である。	1部分である。	"	"							
81	"	20.6	8.4	脚部の1部分である。	クロロ成形。	"	"							
82	盆	6.6	6.6	付高台	クロロ成形。内・外透明な物が掛 り、漏れがある。	"	"							
83	"	17.4	9.0	口縫下に沈縫を有し、内縫 が外反する。	クロロ成形。	"	"							
84	" (?)	20.6	8.4	高台である。	クロロ成形。	"	"							
85	鉢	17.4	17.4	口縫下に沈縫を有し、内縫 が外反する。	クロロ成形。	"	"							
86	环	(?)	9.0	高台である。	クロロ成形。前面に透明な物が点在する。	"	"							
87														
88	壺	3.9	13.2	6.1	口縫部外反、体部外縫	ヨコナデ、底部急逕不等。	粗い	良	淡褐色	黒色	覆土	土師器		
89	"	4.3	13.9	6.6	口縫部外反、体部外縫	ヨコナデ、左側板底差引、内面墨色差引	"	"	"	"	"	土師器		

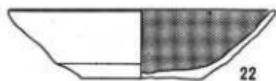
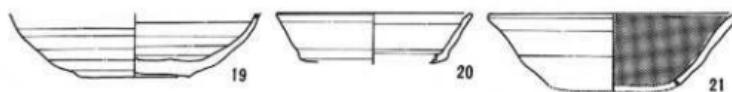
90	环	4.1	14.3	7.0	口縁部外反、体部外輪	ヨコナデ、右回転部糸切、内面黒色處理	粗い 輪選	良 輪選	深褐色 n	黒 n	色 n	覆七 n	土師器 n						
91	n	3.7	13.5	5.8	"	"	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	
92	n	4.3	14.2	6.2	"	"	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	
93	n	4.3	13.5	6.0	やや直線的に口縁が開く	左回転部糸切、 右回転部糸切	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	
94	n	4.3	13.8	6.5	"	"	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	
95	n	3.0	14.1	5.7	"	"	n	n	粗い 輪選	n	n	n	n	n	n	n	n	n	
96	n	4.0	13.0	5.4	口縁部外反、体部外	n	n	乳白色 n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	
97	高台付环	n	"	6.7	高台断面が四角形を呈す	付高台、右回り回転糸切	n	n	灰褐色 n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	
98	n	n	4.8	12.0	"	"	n	n	黄褐色 n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	
99	碗	n	"	6.5	高台断面が四角形を呈す	n	n	黄褐色 n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	
100	蓋	n	"	5.8	高台断面が四角形を呈す	底部処理不明	n	n	乳黄色 n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	
101	蓋	n	"	12.1	口縁部やや外反	ヨコナデ	n	n	橙色 n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	
102	环	n	"	10.2	直線的であまり間かない脚	ヘラケズリ (内外面共に)	n	n	乳黄色 n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	
103	高台付環	n	"	3.0	15.6	6.0	凸台断面が三角形を呈し、 金体に直線的	ヨコナデ、付高台	n	n	橙色 n	n	n	n	n	n	n	n	
104	蓋	n	"	20.0	"	"	口縁部やがに外反	体部ヘラケズリ	n	n	實灰色 n	n	n	n	n	n	n	n	
105	n	15.0	"	"	"	"	の字状に口縁部外反	ヘラケズリ	n	n	橙褐色 n	n	n	n	n	n	n	n	
106	長脚彌	n	0	12.4	"	"	ほぼ直立する口縁部	ナデ	n	n	黒褐色 n	n	n	n	n	n	n	n	
107	片口針	n	29.0	"	"	"	ほばらせるやがれ	不明	n	n	黒褐色 n	n	n	n	n	n	n	n	
108	彷彿車	n	"	"	"	"	断面台形、1孔	ヘラケズリ→ナデ	n	n	黃褐色 n	n	n	n	n	n	n	n	
109	青繩車	n	"	"	"	"	"	"	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	
110	内耳土器	n	"	"	"	"	"	"	n	n	白灰白 n	n	n	n	n	D地点 I	D地點 I	D地點 I	
126	环	16.5	11.5	4.7	5.4	天井部圓平三角形	回転ヘラ削り	普通	n	灰色 n	白灰白 n	n	n	n	n	土師質 n	須恵器 n	須惠器 n	
127	环	n	13.4	4.0	7.0	体部直線的 口縁外反する	ロクロ成形、回転ヘラ削り ロクロ整形、回転糸切り底	普通	n	灰色 n	灰色 n	n	n	n	n	D地點 II	D地點 II	D地點 II	
128	环	n	"	"	"	"	"	"	n	n	灰色 n	n	n	n	n	n	n	n	

第4章 土體衍影一覽表

遺物番号	品種	部位	手法の特徴	遺物番号	品種	部位	手法上の特徴
112	長角	口縁	波状文 4本	119	(?)	外面部	内面部海波
113	"	"	" 3本	120	体部	部	外面部
114	"	"	" 2本	121	瓦		布目
115	"	"	" 2本	122	"	"	"
116	"	"	" 3本	123	底部	部	カマ口
117	(?)	体部		124	"	"	"
118	(?)	"		125	右岸		外面部海波



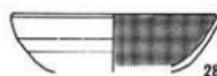
第12図 特殊構造・第3号竪穴状遺構出土土器実測図



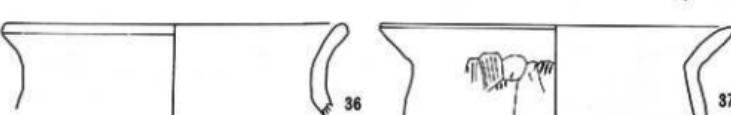
第3号竪穴状遺構



第4号竪穴状遺構

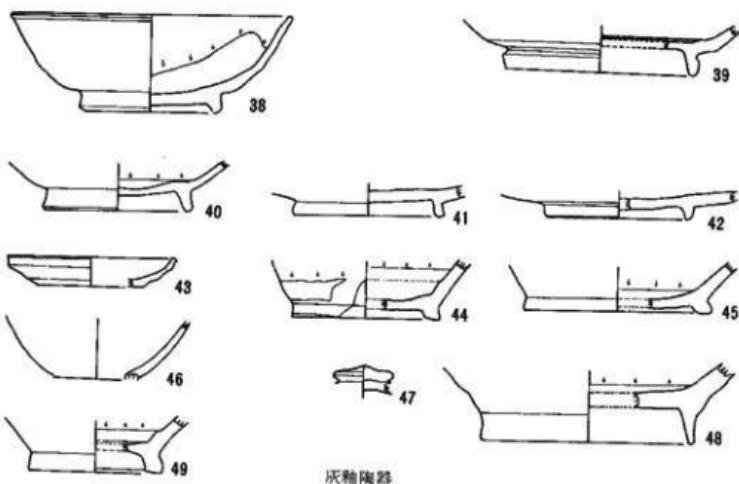


第5号竪穴状遺構

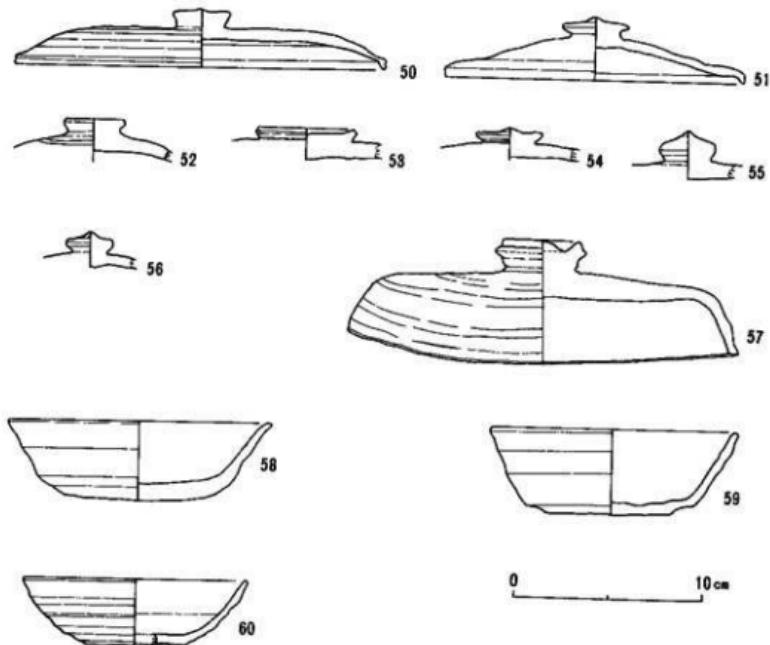


第6号竪穴状遺構・井戸址

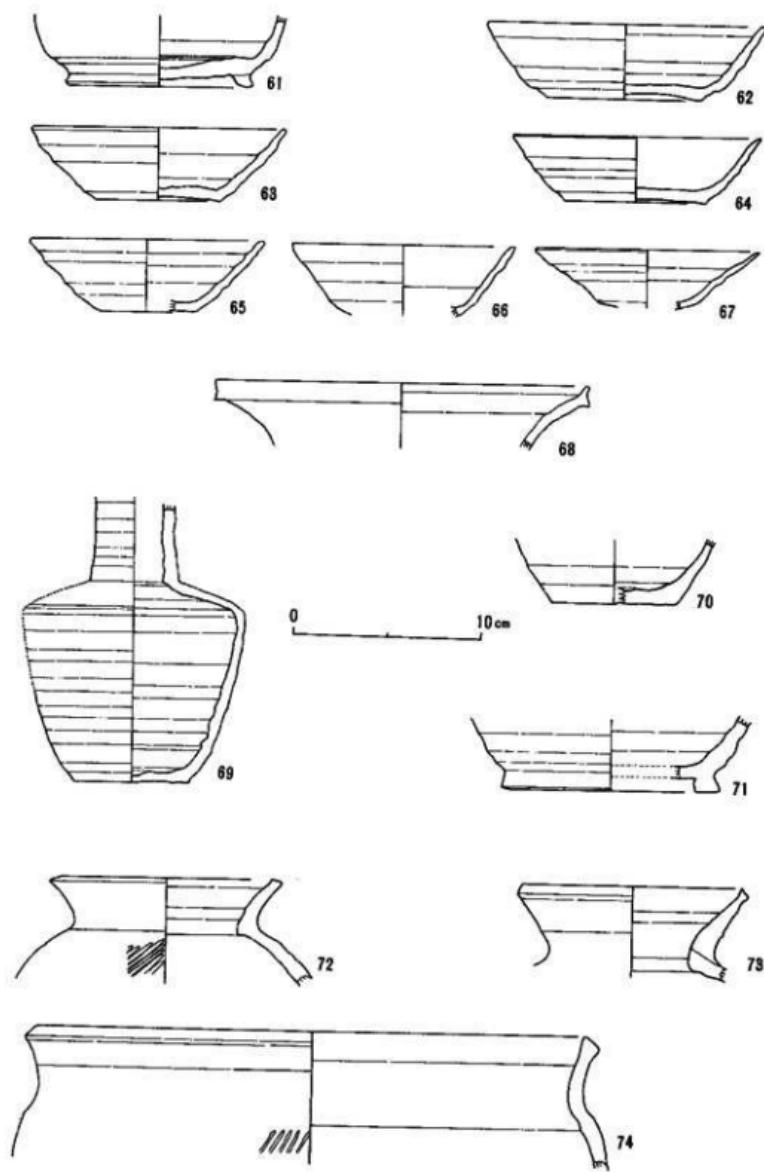
第13図 第3・4・5・6竪穴状遺構・井戸址出土土器実測図



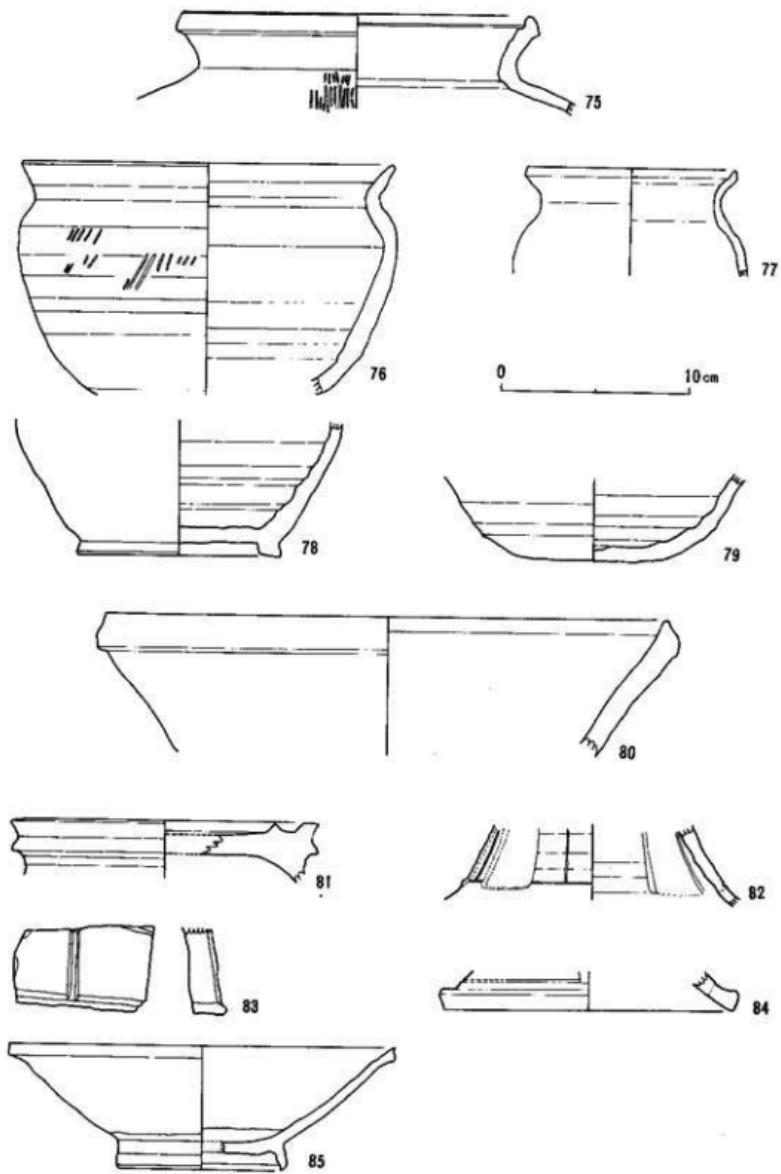
灰釉陶器



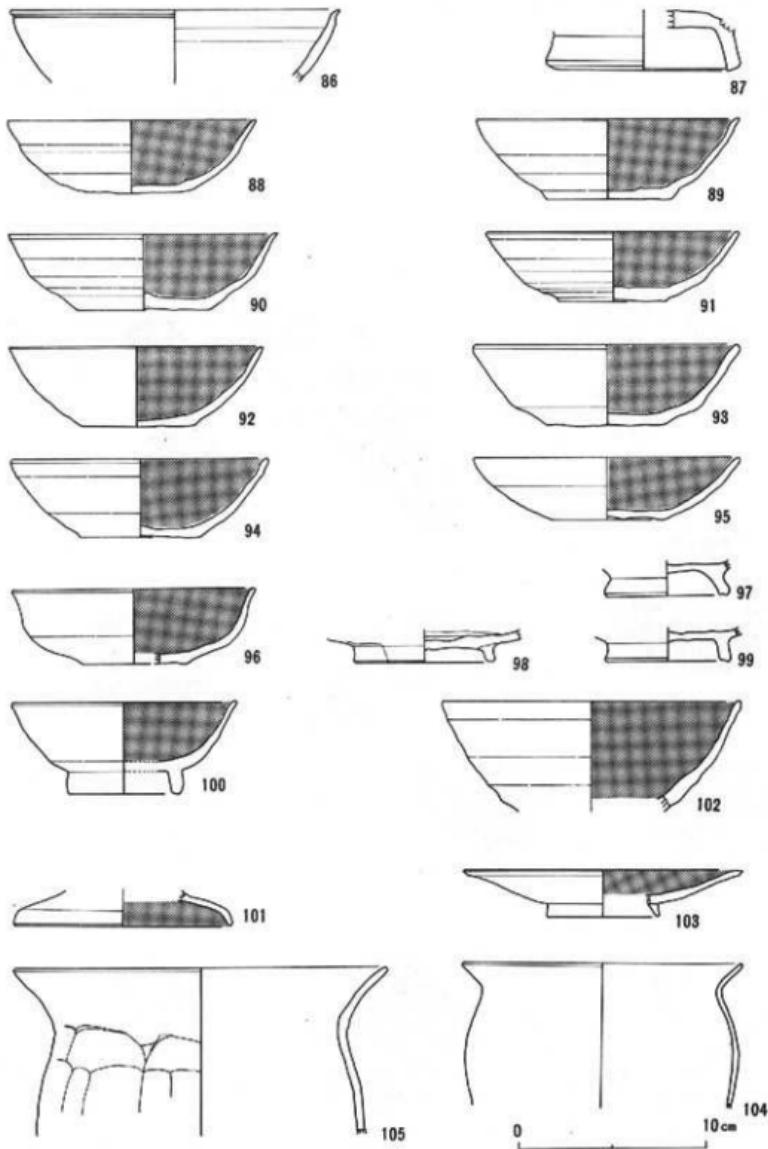
第14図 中井C地点遺構外出土土器実測図



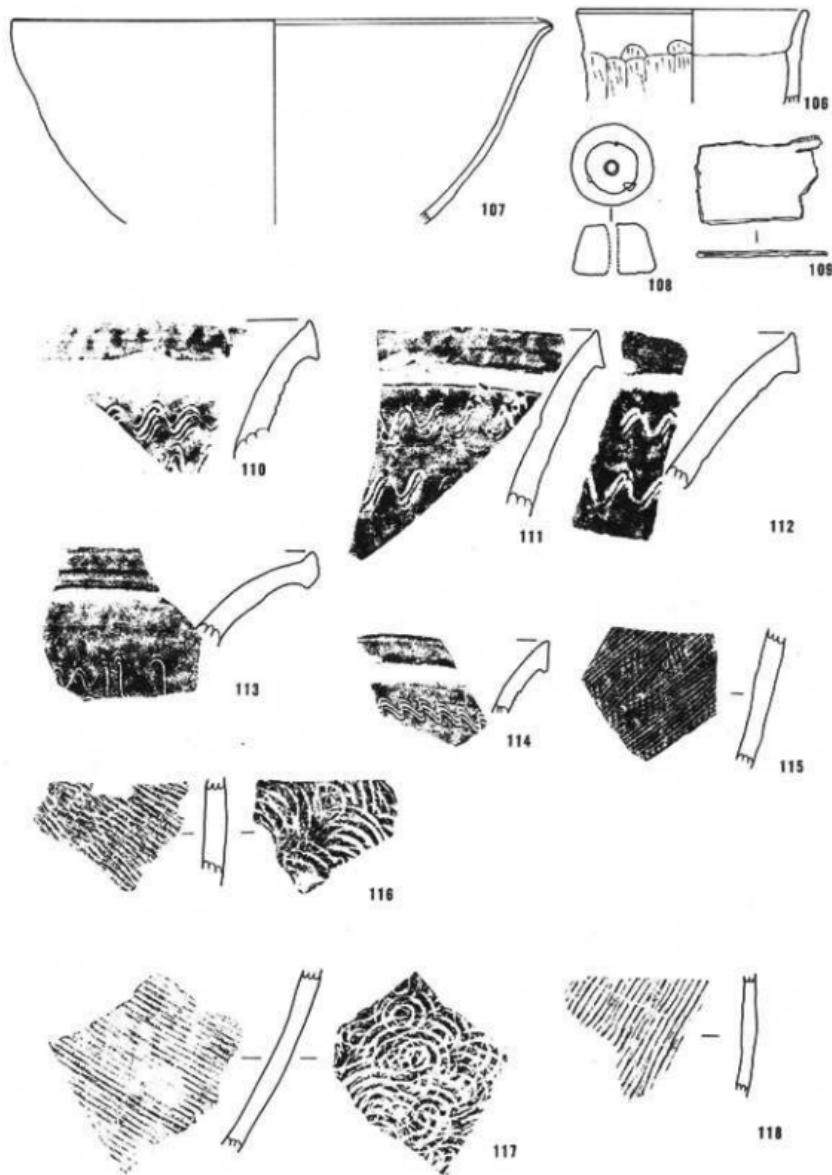
第15圖 中井C地点遺構外出土土器実測図



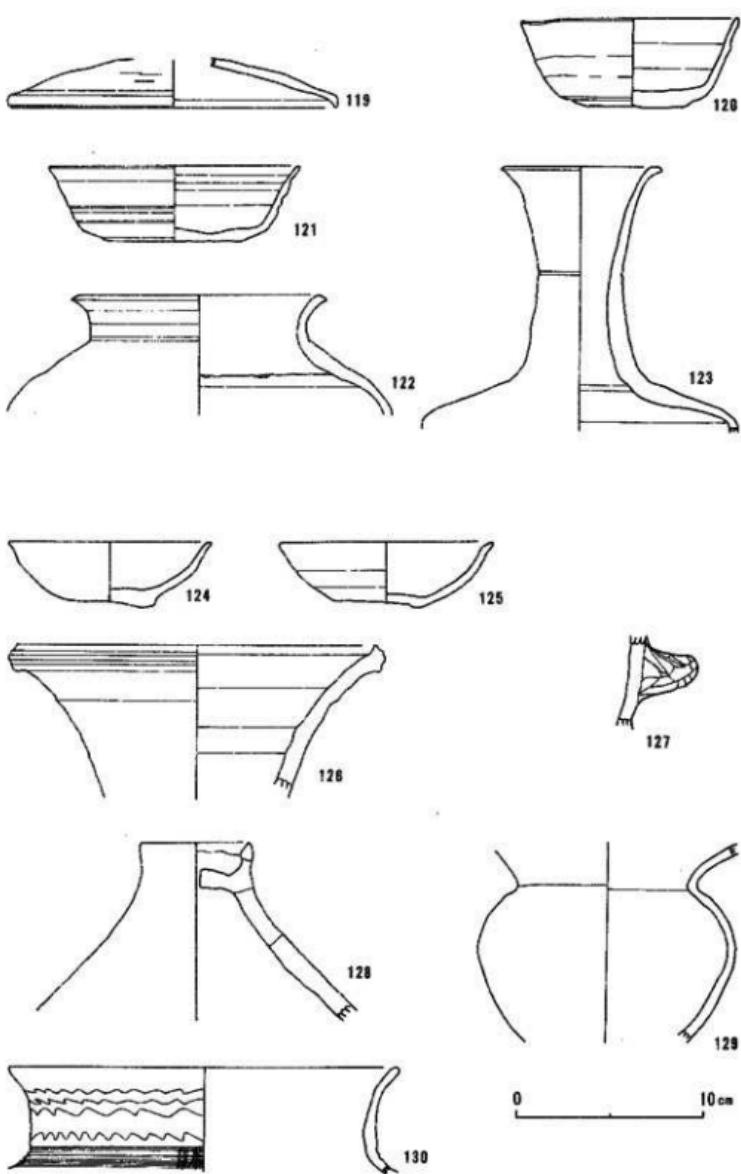
第16図 中井C地点遺構外出土土器実測図



第17図 中井C地点遺構外出土土器実測図



第18图 中井C地点遺構外出土土器・拓影実測図



第19図 中井D・B地点出土土器実測図

第5章 まとめ

今回の中井遺跡C地点発掘調査は上田市教育委員会が昭和55年度中塙川地区圃場整備事業に係る緊急発掘調査として実施したものである。前章において発掘調査に至る経過や、遺構等について述べてきたので簡単にまとめておきたい。

C地点調査の結果、竪穴状遺構が6基、井戸址1、火床址2、掘立柱建築址1棟、特殊遺構1、集石址1基、土壙1基、溝址2本が検出され、他に炭化米ビット群を含むビット群が確認された。

竪穴状遺構のうち第1・2・4号はほぼ隅丸の梢円形を呈し鍋底状の床面をもつ。しかも床面には焼けた痕跡がみられた。

第5号は火床を伴ない、鉄滓・羽口が出土し、国分期の土師器壺形土器も出土した。しかも焼土内での検出であり、当遺跡において遺構の時間的推測をなし得る唯一の遺構といってよい。

第6号は井戸址と相關関係をもつ竪穴状遺構と考えてよいのではなかろうか。しかし時期は不明確である。

第3号は前述の竪穴状遺構とは性格を異にすると思われ、国分期に比定される墨書き須恵器壺形土器が検出された。

特殊遺構と仮称した遺構は、性格・時期等不明確な問題が多く現在判断の基準が見あたらぬ。ただ、硯の脚、木製品などの出土があり、時期としては国分期を上らないと思われる。

掘立柱建築址は2間3間の規模を有し、柱穴下には礎板の残渣が確認されている。

土壙・集石址・溝址は時期が不明確であるが、土壙の性格は墳墓として捉えてよいと考えられる。

調査により本遺跡から出土した遺物は、土師器・須恵器・灰釉陶器・古銭等である。詳しくは表を参考にして頂きたい。ここで特記すべきは硯類が出土した事であろう。遺構内の検出ではないが中井遺跡を語る遺物としては重要なと考えられる。

当遺跡の遺構内より検出された遺物はほとんどが流れ込みである為、遺構における時期が不明確であるが遺物を観ると、時期は国分期の遺構と推定される。

以上、事実経過・問題点等の羅列に終始しましたが、最後に調査に初めから参加され献身的な援助を下さった調査員・地元保野史談会の会員の方々、御協力頂いた多くの皆さまに厚く御礼申し上げます。

図 版



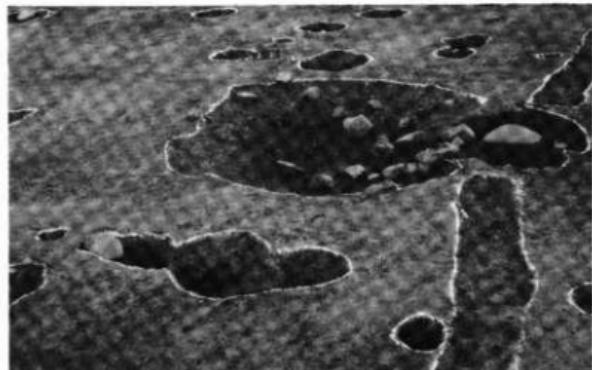
中井道路遠景
(北側より)



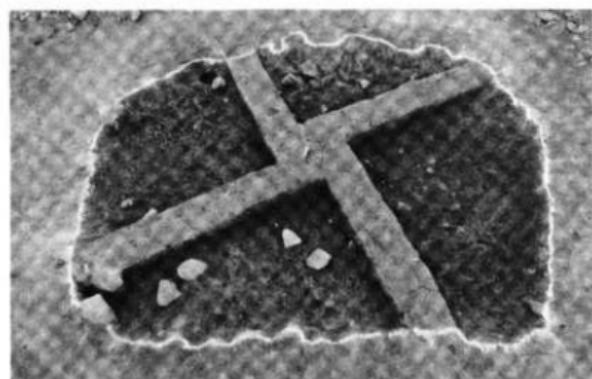
中井遺跡C地点
遺構全景
(南側より)



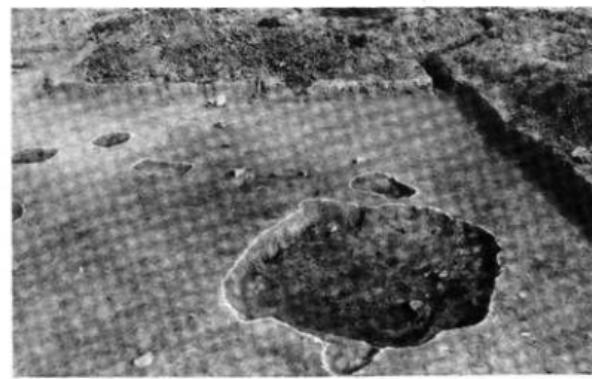
中井遺跡D地点
遺構全景
(北側より)



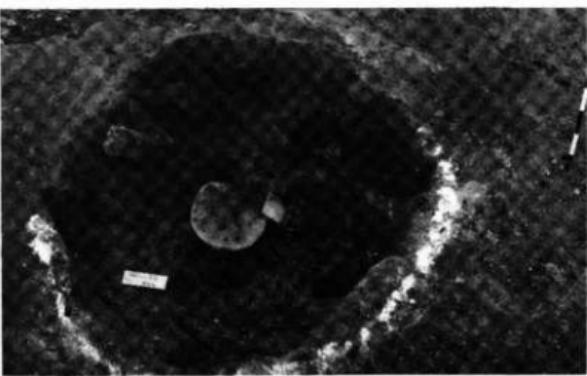
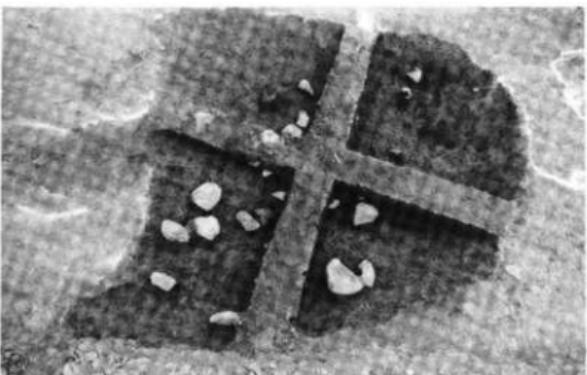
第1号竪穴状遺構
土壌1
溝1

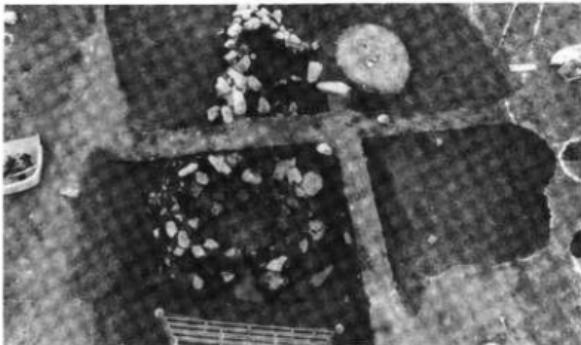


第2号竪穴状遺構



第3号竪穴状遺構
火床1





第6号堅穴状造構と
井戸址



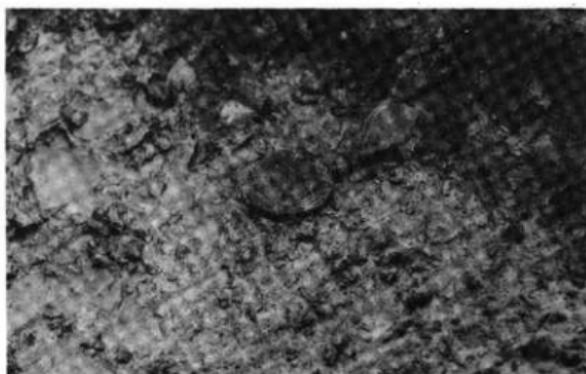
井戸址



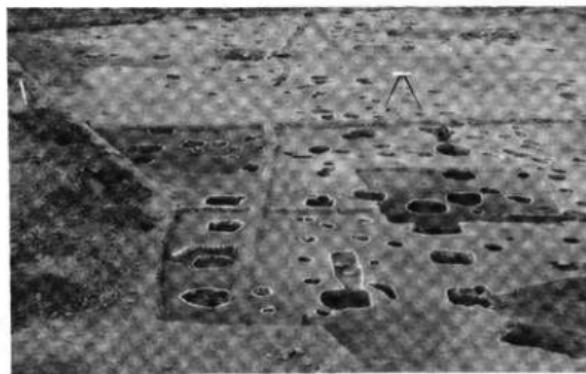
特殊遺構



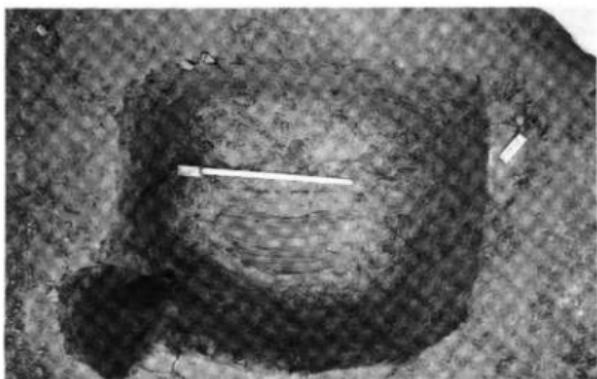
特殊造構中央部



特殊造構北側
木製品出土状況



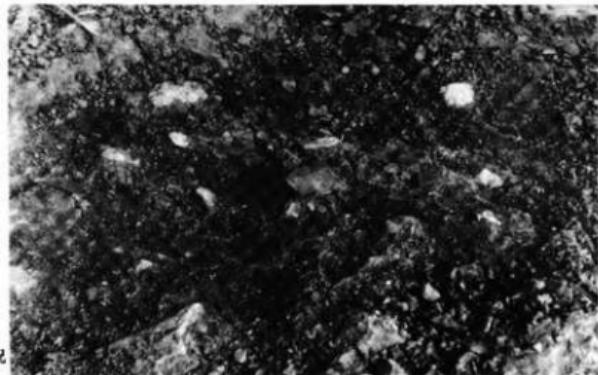
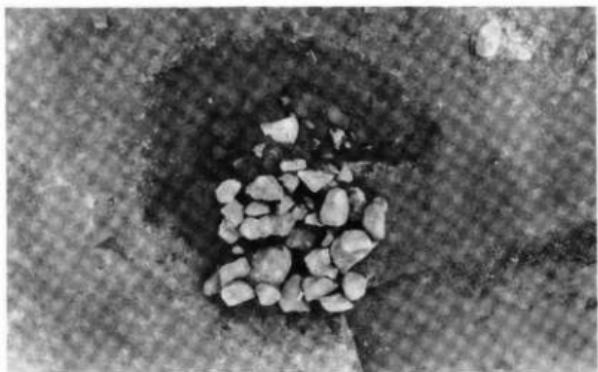
堀立柱建築址



塹立柱建築址
礎板検出状況



遺構外須恵器蓋出土状況





特殊造構出土土器



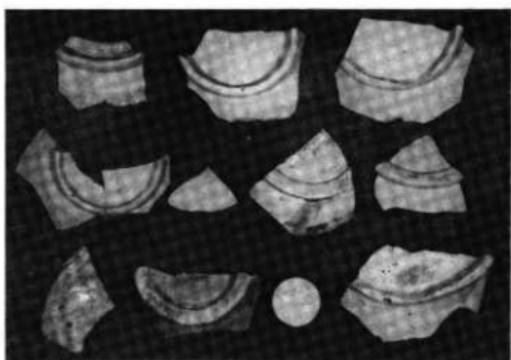
第3号堅穴狀遺跡
出土土器



山茶碗（標高台）



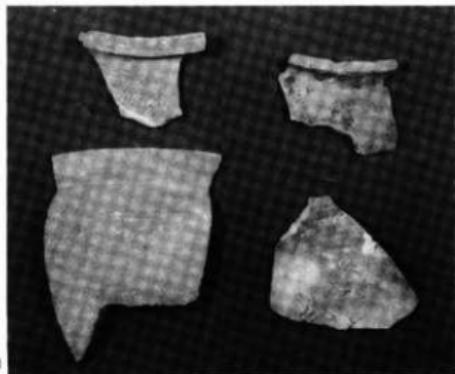
灰釉陶器（B地点）



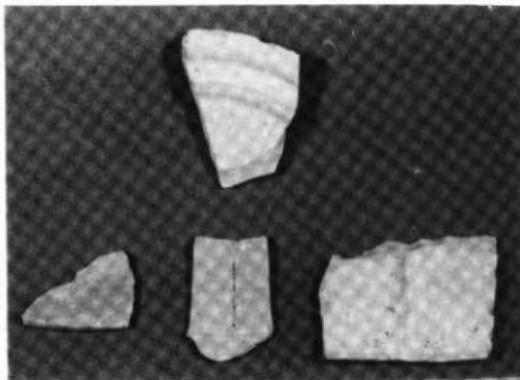
灰釉陶器



須恵器（長頸壺）



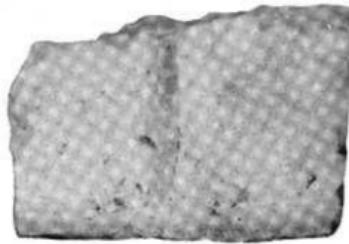
須恵器（壺）



須恵器・(円面硯
硯脚)



円面硯



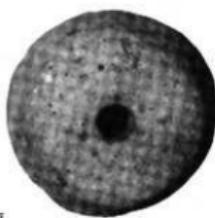
硯



須志器・長頸壺・壺
(D地点)



青磁

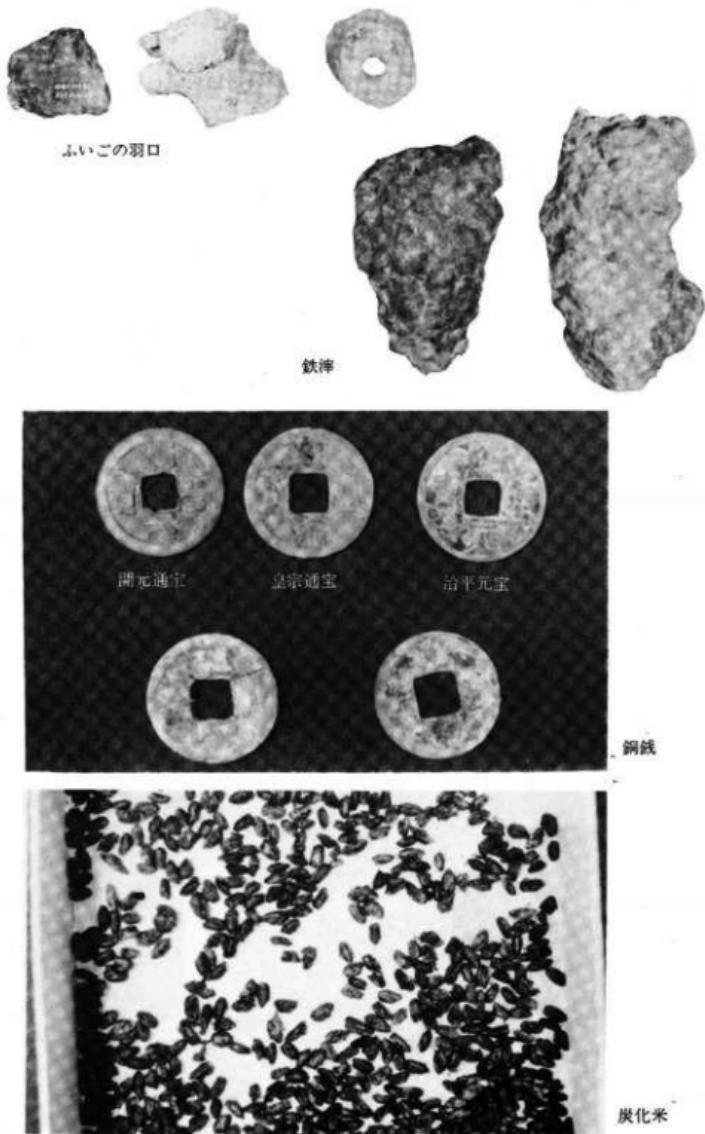


防蓋車



青銅片

第12図版



上田市文化財調査報告書 第15集

中井遺跡発掘調査報告書

印 刷	1981年3月20日
発 行	1981年3月31日
編集者	中井遺跡発掘調査団
発行者	長野県上田市教育委員会 長野県東信土地改良事務所
印刷所	信毎書籍印刷株式会社